REMOTE ROUTER

RT80i

取扱説明書

ヤマハ株式会社

1997. 12. 22

♣ 本書の記載内容の一部または全部を無断で転載することを禁じます。

♣ 本書の記載内容は将来予告なく変更されることがあります。

♣ 本製品を使用した結果発生した情報の消失等の損失については、当社では責任を負いかねます。保証は本製品物損の範囲に限ります。予めご了承ください。

♣ 本書の内容については万全を期して作成致しておりますが、記載漏れやご不審な点がございましたらご一報くださいますようお願い致します。

※ イーサネットは富士ゼロックス社の登録商標です。

※ Windows は米国 Microsoft 社の登録商標です。

※ INS ネット 64 は日本電信電話株式会社の登録商標です。

この **RT80i** 取扱説明書では、安全にお使いいただくために守って頂くべき事柄を図記号を使用して説明しています。これらの図記号がどのような内容を表すかについて理解した上で読みすすめてください。

図記号の表す内容

この記号で示される内容は、人体に危険を及ぼしたり、装置に大きなダメージを与えるような危険な操作であることを示します。必ず守ってください。

この記号で示される内容は、機能停止を招いたり、各種データを消してしまうような損害を与える可能性のあることを示します。十分注意してください。

この記号で示される内容は、操作や運営上で参考になる事柄であることを示します。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づく第一種情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

RT80i は「外国為替および外国貿易管理法」に基づいて規制される戦略物資（または役務）に該当します。このため、日本国外への持ち出しには、日本国政府の事前の許可等が必要です。

目次

1 イントロダクション **1**

1.1 マニュアルの構成 . . . 1
1.2 取扱説明書の構成 . . . 2
1.3 本文中で使用する用語について . . . 2
1.4 本文中での表記について . . . 3
1.5 梱包品の確認 . . . 4
1.6 保守サービス . . . 4
1.7 ご使用にあたってのお願い . . . 5

2 概要 **7**

2.1 装置の概要 . . . 7
2.2 LAN 間接続機能 . . . 8
2.2.1 サポートするプロトコル . . . 8
2.2.2 回線への発着信と切断 . . . 8
2.2.3 パケットのフィルタリング機能 . . . 9
2.2.4 経路情報テーブル . . . 10
2.3 アナログ通信機能 . . . 10
2.3.1 接続通信機器について . . . 11
2.3.2 フレックスホンサービスの利用 . . . 11
2.3.3 トーン . . . 12
2.3.4 発信に関する機能 . . . 12
2.3.5 発信者番号通知機能 . . . 13
2.3.6 即時発信機能 . . . 13
2.3.7 着信に関する機能 . . . 14
2.3.8 代理応答 . . . 14
2.3.9 ダイヤルイン、グローバル着信 . . . 14
2.3.10 サブアドレス無し着信 . . . 15
2.3.11 相手により着信ベルを変える . . . 15
2.3.12 優先着信 . . . 15
2.3.13 通信機器種別指定着信 . . . 15
2.3.14 識別着信 . . . 16
2.3.15 通信料金 . . . 16
2.4 設定とメモリ . . . 17
2.5 停電時の動作 . . . 17
2.6 ISDN 網サービスの利用 . . . 17

3 ハードウェアインストール **19**

3.1 本体各部の名称と働き . . . 19
3.2 インストール作業の際の注意事項 . . . 21

3.2.1 電源及び接地に関する注意 . . . 21
3.2.2 ISDN インタフェースに関する注意 . . . 21
3.2.3 静電気に対する注意 . . . 22
3.3 設置場所について . . . 22
3.4 ケーブル接続上の制限 . . . 22
3.5 インストール手順 . . . 22
3.5.1 必要なイーサネットケーブル、シリアルケーブル、端末の準備 . . . 23
3.5.2 設置場所の確保 . . . 23
3.5.3 イーサネットケーブルの接続 . . . 23
3.5.4 回線の接続 . . . 24
3.5.5 シリアル端末の接続 . . . 24
3.5.6 アナログ通信機器の接続 . . . 25
3.5.7 電源コードの接続 . . . 25

4 コンソールの使用方法 27
4.1 コンソールの位置付け . . . 27
4.2 コンソールの端末パラメータについて . . . 28
4.2.1 表示する文字セットの選択 . . . 28
4.3 コンソールの使用方法について . . . 29
4.3.1 コマンド入力形式 . . . 29
4.3.2 画面表示 . . . 30
4.3.3 キーボード入力の編集 . . . 30
4.3.4 キーボード入力のエラーメッセージ . . . 31
4.4 コマンドシンタックス . . . 31
4.5 ヘルプ機能 . . . 32
4.5.1 コンソールの使用概要の表示 (help コマンドの実行) . . . 32
4.5.2 コマンド名称一覧の表示 . . . 32
4.5.3 コマンド完結候補の表示 (? キーの入力) . . . 33
4.6 コマンド入力の補助機能について . . . 33
4.6.1 コマンドヒストリ機能 . . . 33
4.6.2 コマンド名称補完機能 (Tab キーの入力) . . . 34
4.7 アクセスレベルとパスワードについて . . . 34
4.7.1 アクセスレベル . . . 34
4.7.2 パスワード . . . 35

5 起動・終了と初期設定 37
5.1 起動前の準備と確認 . . . 37
5.2 起動プロセス . . . 37
5.3 初期設定について . . . 38
5.3.1 ログインパスワードと管理パスワードの設定 . . . 38
5.4 終了手順と確認事項 . . . 39

6 設定について 41
6.1 一般的な注意事項 . . . 41
6.2 設定操作の流れ . . . 41
6.2.1 設定の開始 . . . 41
6.2.2 設定の確認 . . . 42
6.2.3 設定の終了 . . . 42

6.3 設定情報と不揮発性メモリへの保存 . . . 43
6.4 設定操作の分類 . . . 44
6.5 設定をデフォルトにもどす方法 . . . 45
6.5.1 相手先情報をデフォルトにもどす . . . 45
6.5.2 すべての設定を工場出荷直後の状態にもどす . . . 45

7 アナログ通信機能の設定と操作 47
7.1 設定について . . . 47
7.2 PB 電話機からの設定 . . . 48
7.2.1 手順概要 . . . 48
7.2.2 設定例 . . . 52
7.3 操作手順 . . . 53
7.3.1 外線発着信 . . . 53
7.3.2 内線発信 . . . 53
7.3.3 代理応答 . . . 53
7.3.4 内線転送 . . . 54
7.3.5 親子電話 . . . 54
7.3.6 擬似コールウェイティング . . . 54
7.3.7 フレックスホン . . . 55

8 システムの管理と診断 57
8.1 システムの管理作業内容 . . . 57
8.2 設定の確認 . . . 58
8.3 TFTP による設定と確認 . . . 58
8.4 プログラムのリビジョンアップ . . . 59
8.4.1 手順の概要 . . . 59
8.4.2 手順の説明 . . . 60
8.5 システムのセキュリティの設定 . . . 62
8.5.1 ログインタイマの設定 . . . 62
8.5.2 セキュリティクラスの設定 . . . 62
8.6 接続性の確認 . . . 63
8.7 システムの診断 . . . 64
8.8 覚えておきたい操作 . . . 64
8.8.1 相手先情報を変更せずに通信を中断したい . . . 64
8.8.2 回線の接続と切断に関するタイマの設定 . . . 65
8.8.3 パスワードを忘れた場合 . . . 66
8.8.4 発信者番号通知サービスの利用 . . . 66
8.8.5 通信費用の監視 . . . 67
8.8.6 設定内容をすべて消去したい . . . 67
8.8.7 遠隔地のルータの設定 . . . 68
8.8.8 回線状況の確認方法 . . . 69
8.8.9 手動発信 . . . 69
8.8.10 手動切断 . . . 69

9 参考資料 71
9.1 ハードウェア仕様 . . . 71
9.2 通信機能 . . . 71
9.3 IP アドレスについて . . . 72

9.3.1 アドレス長 72
9.3.2 アドレスクラス 72
9.3.3 ネットマスク 72
9.3.4 ブロードキャストアドレス 73
9.4 IP アドレスの取得と **RT80i** への設定 73
9.5 INS ネット 64 申込上の注意点 74

索引 **76**

第 1 章　イントロダクション

この取扱説明書は、この **RT80i** を含むネットワークを管理する人を対象にして、**RT80i** を導入、管理するために必要な事柄を説明してあります。イントロダクションでは以下の項目を説明します。

- ♣ マニュアルの構成
- ♣ 取扱説明書の構成
- ♣ 本文中で使用する用語について
- ♣ 本文中での表記について
- ♣ 梱包品の確認
- ♣ 保守サービス
- ♣ ご使用にあたってのお願い

1.1　マニュアルの構成

RT80i マニュアルは次の 4 冊から構成されています。

1. 取扱説明書	今お読みのマニュアルです。**RT80i** の導入からインストール手順、初期設定やすすんだ設定の進め方から管理方法までを包括的に説明します。ご購入の際には必ずお読み頂き、注意事項を守ってください。
2. クイックスタートガイド	インストール後、実際にネットワークの接続を行なうための具体的な設定例を、豊富な例をもとに解説します。
3. コマンドリファレンス	**RT80i** を設定するためのコマンドの形式とその解説や使用例を網羅したドキュメントです。
4. WWW 設定ガイド	**RT80i** を WWW ブラウザから設定するための方法を解説したガイドブックです。

1.2 取扱説明書の構成

取扱説明書の各章は、**RT80i** を実際に導入、管理する時に読み進むべき順番で構成されています。各章の構成とその内容は以下のようになっています。

章	内容
イントロダクション	この取扱説明書の構成とご購入時に注意して頂く事柄を説明します。
概要	**RT80i** の性能や機能、運営についての注意事項を説明します。
ハードウェアインストール	**RT80i** 本体をネットワーク及び電源と接続する手順を説明します。
コンソールの使用方法	**RT80i** に各種設定を行なうために必要なコンソールの使用方法について説明します。
起動・終了と初期設定	**RT80i** の起動・終了手順と、コンソールから初期設定を行なう方法を説明します。
設定について	**RT80i** の設定を行なう前に知っておくべき事柄を説明します。
アナログ通信機器の設定と操作	**RT80i** のアナログ通信機器に関する設定と、フレックスホンの操作方法などを具体的に説明します。
システムの管理と診断	システムの管理方法と、診断方法や、手動で回線へ発信したり、回線を切断する方法を説明します。
参考資料	取扱説明書を読む上で参考となる情報をまとめてあります。

1.3 本文中で使用する用語について

用語	説明
RFC	Request for Comments の略。通信に関する取り決めを記述したドキュメントであり、多くの通信装置がこれに基づいてインプリメントされています。しかし、規格ではないことに注意する必要があります。
MP	PPP Multilink Protocol(RFC 1717) の略。論理的に複数の PPP のリンクを分離したり統合したりするプロトコルです。**RT80i** では、通信トラフィックに応じて相手との ISDN 回線のチャネル数を増減させることが可能です。
PPP	Point-to-Point Protocol (RFC 1661, IETF STD 0051) の略。回線を接続した後パケットをカプセル化するプロトコルです。
LAN 側	**RT80i** のイーサネットインタフェースの部分を表します。
PP 側	PP とは Point to Point の略。“PP 側” というのは、Point to Point 接続した相手側という意味です。
回線側	ISDN 回線またはディジタル専用線とのインタフェース部分を表します。
不揮発性メモリ	**RT80i** の電源を OFF にしても、内部情報が失われないメモリのことです。システムのプログラムとユーザの設定情報を保存します。
アクセスレベル	セキュリティの観点から、**RT80i** へのアクセスには一般ユーザと管理ユーザの 2 つのレベルが設定されています。
一般ユーザ	**RT80i** にログインした直後のアクセスレベルです。一般ユーザのアクセスは、**RT80i** の設定内容や管理情報などの参照に限定されています。
管理ユーザ	**RT80i** の設定を行なったり、管理するアクセスレベルです。操作に限定がありません。
ログインパスワード	**RT80i** にログインする時のパスワードです。
管理パスワード	ログイン後に管理ユーザになる時に必要なパスワードです。
セキュリティクラス	アクセスとログインに関する制限のことです。

続く

用語	説明
相手先情報	ISDN 回線またはディジタル専用線で PPP 接続する際に必要な相手側の情報です。1 から 30 までの番号と anonymous という ISDN 回線用の相手先情報があります。
コマンド	コンソールから **RT80i** に与える命令です。多くのコマンドはユーザがパラメータを指定する必要があります。
コールバック	PPP 接続を開始する場合の一形態です。ISDN 回線への発信側がコールバック要求を出して着信側がその要求を受け付けると、通信を接続せずに終了し、改めてその着信側が発信側へ発信し直します。相手に料金負担してもらう場合等に利用します。
フィルタ	**RT80i** がパケットを捨てる条件のことです。フィルタをかけることをフィルタリングと言います。主にセキュリティの観点から特定のネットワークに対するパケットの送信 / 受信を抑止する目的で、管理ユーザが **RT80i** に設定することができます。フィルタには、IP に対するものが用意されています。

1.4 本文中での表記について

内容の理解を助けるために本文では以下のルールを採用しています。

- 本文中の注意事項は、アンダーラインで強調して示します。
- コマンドは小文字の太字 (**Bold face**) で表します。
- コマンドのパラメータとして指定する部分は、コマンドの名称部分と判別できるように斜体 (*Italic face*) で表します。
- コンソールのキーは 四角で囲って 表します。
- コンソールのリターンキー、コントロールキー、Tab キー、バックスペースキー、削除キー、カーソルキーはそれぞれ Return キー、 Ctrl キー、 Tab キー、 BS キー、 Del キー、 ↑ キー、 ↓ キー、 ← キー、 → キーで表します。
- コマンドのパラメータ部分でカギ括弧 ([ ]) で示された所はオプションであることを示し、そのパラメータが省略可能であることを表します。省略したパラメータがどのような設定として扱われるかについてはコマンドリファレンスの該当部分を参照してください。
- コンソールに表示されるメッセージは、本文部分と区別するためにタイプライタ体 (`Typewriter face`) で表し、端末に表示されたイメージで表します。
- アナログポートに接続した電話機のキー操作は、 0 キー、 1 キー、... 9 キー、 * キー、 # キーのように表します。

  なお、本文中では便宜上、 ✳ と ⌗ の代わりに * キー、 # キーのように表します。

1.5 梱包品の確認

以下に梱包品の一覧表を示します。ご購入時に内容を確認してください。

梱包品一覧表

品名	数量	備考
RT80i 本体	1 台	
取扱説明書	1 冊	
クイックスタートガイド	1 冊	
コマンドリファレンス	1 冊	
WWW 設定ガイド	1 冊	
保証書	1 枚	
モジュラーケーブル	1 本	6 ピン

尚、別途以下の物が必要となる場合があります。

RT80i を接続するイーサネット LAN 上に WWW ブラウザの動作するコンピュータが無い場合または、リモートログインできる設定済みの YAMAHA リモートルータが無い場合には、ご購入直後の設定すなわちインストールの際にデータ伝送速度 **9600bit/s**、 キャラクタ長 **8bits**、パリティ無しに設定されたシリアル端末が必要です。

ハードウェアインストールを参照して、次のものをご用意ください。

- シリアル端末
- SERIAL ポートとシリアル端末を接続するクロスケーブル
- シリアル端末用の通信ソフト

1.6 保守サービス

保証についてと、トラブルが発生した時の対処、故障の場合の保守サービスについて説明します。

■ 保証期間

ご購入から満 1 年です。

■ 保証書について

保証書をお受取りの際は、お買い上げ年月日 ･販売店などを必ずご確認の上大切に保管してください。万一紛失なさいますと、保証期間中であっても実費を頂戴させていただくことになります。

■ 保証期間中のサービス

保証期間中に万一故障が発生した場合には、ご購入の販売店または下記ヤマハサービス窓口までご連絡の上、製品をご送付ください。その際必ず保証書を同封してください。

■ 保証期間後のサービス

保証期間が切れますとサービスは有料となりますが、引続き責任をもってサービスさせていただきます。ご購入の販売店または下記ヤマハサービス窓口までご連絡ください。但し、サービス保証期間は製造後 5 年間です。

■ リビジョンアップについて

リビジョンアップされたプログラムとマニュアルなどは、次の Anonymous ftp サイトと WWW サーバで提供しています。

ftp.rtpro.yamaha.co.jp

http://www.rtpro.yamaha.co.jp/

RT80i サービス窓口

ヤマハ株式会社 システム機器事業部 RT80i 担当

TEL: 0120–808384

〒 438–0192　静岡県磐田郡豊岡村松之木島 203

1.7　ご使用にあたってのお願い

RT80i のご使用にあたってＮＴＴのレンタル電話機が不要となる場合は、ＮＴＴへご連絡ください。ご連絡いただいた日をもって、　機器使用料」は不要となります。詳しくは、局番なしの１１６番　(無料) へお問い合わせください。

第 2 章　概要

RT80i の機能と動作の概要を説明します。概要では以下の項目を説明します。

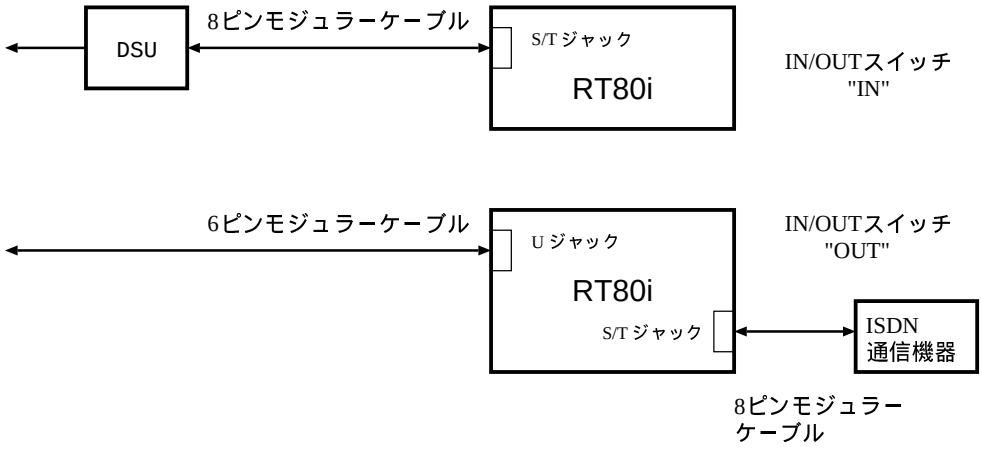
- ♣ 装置の概要
- ♣ LAN 間接続機能
- ♣ アナログ通信機能
- ♣ 設定とメモリ
- ♣ 停電時の動作
- ♣ ISDN 網サービスの利用

2.1　装置の概要

RT80i は、ISDN 回線またはディジタル専用線を介して、**RT80i** に接続された LAN を遠隔地の LAN に接続するための装置です。

また、ISDN 回線に接続した場合に、アナログポートに接続したアナログ通信機器に対してターミナルアダプタとして機能します。逆に、ISDN 回線以外に接続した場合にはこの機能は一切使用できません。

RT80i は DSU 機能を内蔵しているため、外付けの DSU を介さずに回線に直接接続することができます。更に、外付け DSU が既に設置されている場合には、その DSU を介して接続することもできます。各々の場合には接続方法が異なりますので、十分に理解してから配線作業を行なう必要があります。



ここでは **RT80i** の動作の概観を、大きく LAN 間接続機能、アナログ通信機能の 2 つに分けて説明します。

2.2 LAN 間接続機能

2.2.1 サポートするプロトコル

RT80i では LAN 間接続機能として経路制御 (ルーティングとも呼ばれます) が可能です。経路制御では IP パケットを扱うことができます。

経路制御とは、パケット内部に記録された IP アドレスに基づいて適切な経路を決めてそのパケットを配送することです。

RT80i が行なう経路制御は、サポートするプロトコルのみが対象となり、サポートしていない通信プロトコルのパケットは破棄されます。

2.2.2 回線への発着信と切断

遠隔地のネットワークとの接続に利用する回線の種別と、その回線への発着信と切断について説明します。

RT80i の ISDN ポートに接続できる回線は次の 3 種類です。ネットワークの運営目的や形態、予算に応じて設定します。

接続可能な回線の種別
INS ネット 64
64kbit/s ディジタル専用線 (DA64 等含む)
128kbit/s ディジタル専用線

ディジタル専用線の場合には、回線は常時接続されたままになります。

INS ネット 64 の場合、回線への発着信は次のような条件で行なわれます。

- LAN 側からのパケットが相手先情報により遠隔地のネットワークへ配送すべきものであると判断した場合
- 回線側に着信があった場合
- 管理ユーザが手動で回線への発信コマンドを実行した場合

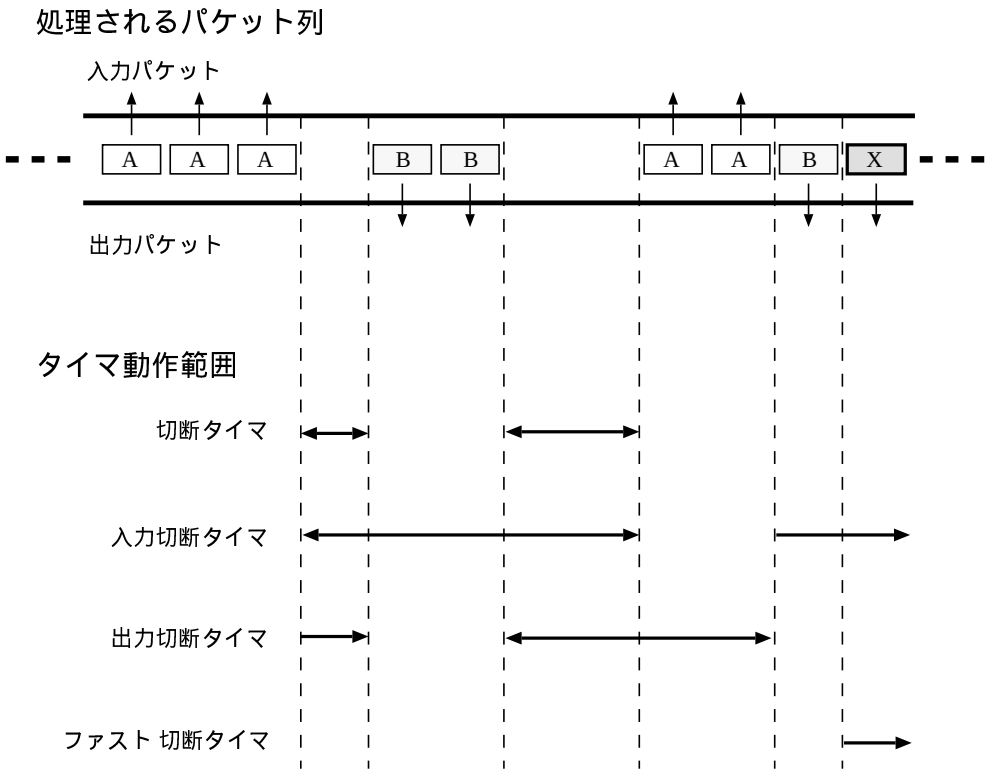
回線の切断は次のようにして行なわれます。

- 接続された回線上のパケットのトラフィックを監視して、一定時間パケットのやりとりが無いと判断された時に **RT80i** が自動的に行なう
- 管理ユーザが手動で回線切断コマンドを実行する

自動切断のためのタイマには、目的別に次の表の 5 種類があります。

タイマ種別	説明
切断タイマ	PP 側からデータ送受信が無い時、このタイマの時間を経過すると回線を切断します。
入力切断タイマ	PP 側からデータ受信が無い時、このタイマの時間を経過すると回線を切断します。
出力切断タイマ	PP 側へのデータ送信が無い時、このタイマの時間を経過すると回線を切断します。
ファスト切断タイマ	回線接続中、別宛先へ接続したい時に、このタイマの時間を経過すると接続中の回線を切断し、別宛先へ発信します。
強制切断タイマ	相手に接続する最大時間を制限します。このタイマの時間を経過すると、通信状態にかかわらず接続中の回線を強制的に切断します。

タイマの動作範囲を以下に図示します。



この他に、**pp account threshold** コマンドを使用して、ユーザが設定した課金額を越えた場合に発信を制限することが可能です。

MEMO

切断タイマの動作方式は、**isdn disconnect policy** コマンドにより上記単純トラフィック監視方式ではなく課金単位方式に設定することもできます。

2.2.3 パケットのフィルタリング機能

主にセキュリティの観点から特定のパケットを通過させないようにする目的で、パケットのフィルタリングを行なうことができます。

フィルタリングは、IP に対して定義されたフィルタの設定により独立に行なうことができます。すなわち、IP パケットのフィルタリングは IP に対して定義されたフィルタを用いて行なうことになります。

IP フィルタリングの条件として次のような要素を独立して指定することができます。

- 始点 IP アドレス
- 終点 IP アドレス
- TCP や ICMP といったプロトコルの種別
- TCP または UDP の始点ポートと終点ポート
- パケットの送信か受信か

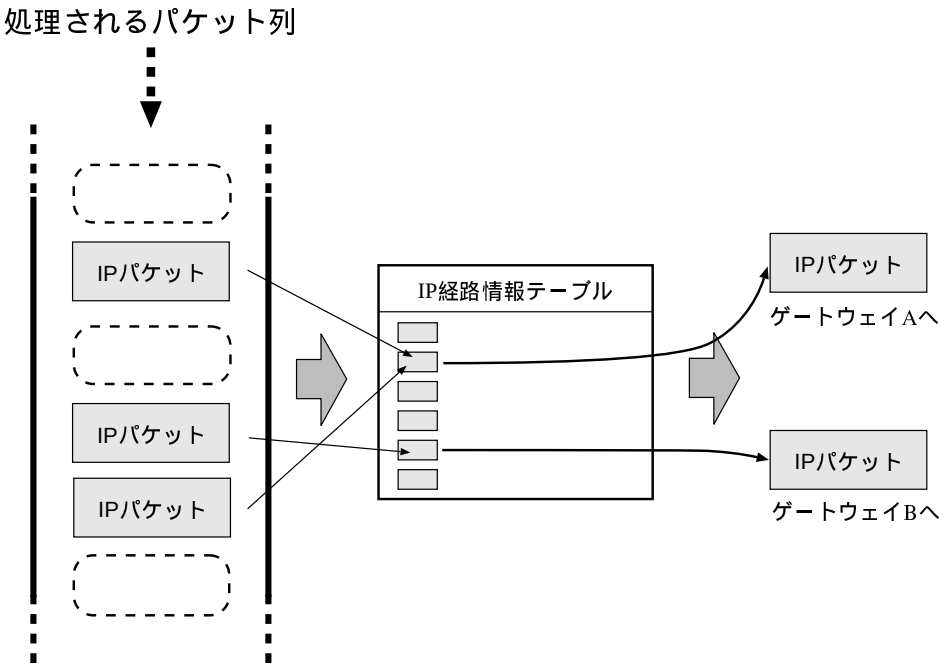
MEMO

パケットがフィルタリングされるとそのパケットデータは破棄され、発信者へは何の通知も行なわれません。

2.2.4 経路情報テーブル

パケットの送り先に対し、**RT80i** のどのインタフェースを使用して、どのルータまたはホスト宛にそのパケットを配送すべきかの情報をまとめたものを経路情報テーブルと呼びます。

RT80i には、IP 用の経路情報テーブルがあります。



これらの経路情報テーブルは、管理ユーザが直接設定することができます。この情報はスタティックルーティングになります。経路情報をルータ間の通信により自動的に構築させるものをダイナミックルーティングと呼びます。**RT80i** では、ダイナミックルーティングのプロトコルとしてRIPまたはRIP2を指定することができます。

スタティックルーティングとダイナミックルーティングを同時に使用することも可能であり、その情報はプロトコル毎に 1 つの経路情報テーブルで管理されます。

2.3 アナログ通信機能

アナログ通信機能とは、**RT80i** の TEL1 ポート及び TEL2 ポートに接続したアナログ通信機器 (電話機やモデム、FAX など) を ISDN 回線で使用可能にする機能です。**RT80i** はターミナルアダプタとして機能します。

これ以降では、TEL1 ポートと TEL2 ポートを区別しない場合はアナログポートと表記します。

アナログ通信機能は、**RT80i** が ISDN 回線に接続されている場合にだけ利用できます。高速ディジタル専用線に接続した場合には、アナログポートに接続したアナログ通信機器は一切使用できません。また、アナログ電話機を接続して受話器をあげても無音状態です。

RT80i は LAN 間接続機能とは独立にアナログ通信機能を提供しますので、回線にルータとターミナルアダプタがバス配線されているイメージで捉えることができます。

2.3.1 接続通信機器について

RT80i には、通常のアナログ通信機器を接続できますが、次の項目に該当する場合にはご使用できないか機能が制限されます。

- (財) 電気通信端末機器審査協会の適合認定品でない機器 (使用不能)

  適合認定品には、本体及び取扱説明書に以下のいずれかの認定マークが明記されています。

- 硬貨収納信号送出機能を必要とするピンク電話機及び公衆電話機等 (使用不能)
- 6 ピンモジュラージャック (RJ–11) で接続できない機器 (接続には工事が必要)

RT80i 側は PB と DP を自動認識するので特別な設定は不要です。

電話機に PB(プッシュボタン式) と DP(ダイヤルパルス式) の切替スイッチがある場合には PB 側へ切替えてご使用ください。DP 電話機を接続して通信することはできますが、以下の機能は使用できません。

- ＃で始まる番号へのダイヤル
- 相手先番号ダイヤル後、 # キーを押してすぐ発信
- サブアドレスを指定したダイヤル
- 電話機からのアナログ通信機能に関する設定
- 内線発信
- 内線転送
- 親子電話
- フレックスホン機能使用中の * キーを使用した通話と保留の切替

2.3.2 フレックスホンサービスの利用

フレックスホンサービスとは、ISDN の局側で提供される特別な機能です。これを利用すると、通信中に別の着信に応答したり、三人で通話したり、別の相手に通信を転送することが可能になります。

フレックスホンサービスは以下の表に示す 4 つの機能の総称であり、有料のサービスです。これらを利用するためには NTT との契約が必要です。

種別	説明
コールウェイティング	通信中に新たな着信があった場合、通信中の相手を保留し、その着信に応答して通話することです。
通信中転送	現在の通信を第三者に転送することです。
三者通話	通話中に第三者に発信して呼び出して、三者間で通話することです。
着信転送	着信した通信に応答せずに、予め **RT80i** に登録しておいた番号へ転送することです。

RT80i では、フレックスホンサービスにおけるコールウェイティングを擬似的に実現する擬似コールウェイティング機能を持ちます。この機能の使用には NTT との契約は不要であり、また無料で利用できます。

ただしこの機能は回線の 2 チャネルを使用するので、空きチャネルがない時には使用できない点に注意してください。また、この機能を使用可能に設定した場合には、NTT のフレックスホン機能は全て使用できなくなります。

2.3.3 トーン

RT80i に接続したアナログ通信機器では、操作中の状態がわかるようにさまざまな音を使い分けます。アナログポートにアナログ電話機を接続した場合に聞こえる音の種類を以下の表にまとめます。本書ではこの表の名称欄で記載された呼び方を用います。

名称	意味
ダイヤルトーン	「ツー」という連続音です。通常、ダイヤル前に受話器をとった時に受話器から聞こえる音です。電話機にダイヤルできることを意味します。
セカンドダイヤルトーン	「プップップップッ」という音です。フレックスホン機能使用中に、別の相手にダイヤルできることを意味します。
呼出音	ダイヤル後、相手を呼出中であることを意味する受話器から聞こえる音です。
着信ベル	着信した時に鳴る音です。**RT80i** では、３種類の外線用の着信ベル音と１種類の内線用の着信ベル音を持ちます。外線に対しては、登録した相手によりベルの音 (リズム) を変えることが可能です。
ビジートーン	「ツー、ツー」という短い断続音です。相手が話中で継らなかった時や相手からの電話が切れた後に受話器から聞こえる音です。
話中着信音	「ププ.... ププ....」という短い断続音がゆっくり間をおいて聞こえます。話中に着信があったことを伝える音です。
ポーズトーン	「ツツー、ツツー」という断続音です。フレックスホンの操作で保留中に聞こえる音です。この音がこちらで聞こえている間は、保留された相手は無音状態になっています。
ハウラー	受話器が外れたままの時に鳴る大きな音です。

2.3.4 発信に関する機能

アナログポートからの発信機能には以下の機能があります。いずれの機能も **RT80i** に特別な設定をすることなく利用することができます。

- 外線発信
- 内線発信
- 発信者番号通知機能
- 即時発信機能

外線発信機能は、アナログポートの通信機器から外線へ発信する機能です。アナログ回線に接続した場合と同様の使用方法でご使用頂けます。

内線発信機能は、一方のアナログポートから他方のアナログポートへ発信する機能です。番号として [*] キー [1] キーをダイヤルすると発信することができます。呼び出されたポートでは、内線着信ベルが鳴ります。

発信者番号通知は、発信者の電話番号情報を発信時に相手側へ送信する機能です。呼び出された通信機器にこの番号を表示する機能やこの情報を利用する機能がある場合に通知します。

また逆に、相手に番号を伝えたくない場合には通知しないようにすることもできます。通知するかしないかは、回線契約内容と、**RT80i** の設定により決まります。

即時発信機能は、ダイヤル終了後にすぐに発信を開始する機能です。通常のダイヤルでは、最後の番号キーをダイヤルしてから、次のキー入力が無いことを監視するタイマーが満了してからはじめて発信動作を開始します。

この即時発信の機能が働かないように **RT80i** に設定することもできます。

2.3.5 発信者番号通知機能

アナログポートからの発信を行なう場合、自分の契約者回線番号やダイヤルイン番号を相手側へ伝えることを発信者番号通知と呼びます。

ISDN 回線の契約時には、発信者番号通知を 『呼毎通知許可』、『呼毎通知拒否」または 『常時通知拒否」とする契約形態があります。

『常時通知拒否」として契約した場合には相手側へ番号は伝わりません。その他の契約形態では、**RT80i** の設定や操作により発信者番号を相手に通知するか通知しないかが可能となります。

通知するか通知しないかを指定するためには次の方法があります。

1. 指定したポートでの発信者番号通知を 『通知する」に設定する。
2. 指定したポートでの発信者番号通知を 『通知しない」に設定する。
3. 相手先番号をダイヤルする前に 「１８５」または 「１８６」の番号をつけて通知する。
4. 相手先番号をダイヤルする前に 「１８４」の番号をつけて通知しない。

発信者番号通知の設定を通知する通知しないにする設定については、アナログ通信機能の設定と操作の章を参照してください。

3 番目と 4 番目の方法は、発信者番号通知の設定を無視して行なわれます。つまり、発信者番号通知の通知する通知しないの設定に関わらず、発信者番号を通知したくない相手にダイヤルしたい場合は１、８、４をダイヤルしてから続けて相手先番号をダイヤルします。

逆に、相手に通知したい場合には１、８、５ (または１８６) をダイヤルしてから続けて相手先番号をダイヤルします。

発信者番号通知を使い分ける 「１８４」「１８５」「１８６」の番号は、NTT が提供する発信者番号通知サービスとは異なります。

2.3.6 即時発信機能

即時発信機能を使用するように設定されている場合には、**RT80i** はアナログポートから発信が成功するたびにダイヤルした番号と使用回数を内部で記憶します。同じ番号を再びダイヤルした場合にはキー入力完了後すぐに発信を開始します。

即時発信としてのダイヤル番号は最大２０件分であり、この数を越える異なる番号へダイヤルした場合には、最も使用頻度の少ないダイヤル番号が即時発信の対象から自動的に削除されていきます。これはポート毎に区別して行なわれます。発信者番号通知のための 「１８４」「１８５」「１８６」は無視され、その後の番号だけが即時発信の番号として扱われます。

記憶された即時発信に関する情報は、電源が消失すると消えてしまうので注意が必要です。

2.3.7 着信に関する機能

RT80i の着信機能には以下の機能があります。代理応答以外の機能を利用するためには **RT80i** への設定が必要となります。

- 代理応答
- ダイヤルイン、グローバル着信
- サブアドレス無し着信
- 相手により呼出音を変える
- 優先着信
- 通信機器種別指定着信
- 識別着信

2.3.8 代理応答

代理応答機能は、一方のアナログポートへの着信を別のアナログポートで応答する機能です。

着信のアナログポートがオンフック状態でないと、別のアナログポートから代理応答することはできません。

2.3.9 ダイヤルイン、グローバル着信

ダイヤルイン機能は、NTT 等のネットワーク提供者が行なう機能です。ダイヤルインの契約を行なうと、契約者回線番号の他に別途ダイヤルイン番号を使用することが出来、1 本の回線を論理的に 2 つの番号をもつ回線のように扱うことが出来ます。

これによって、同一回線上の端末にダイヤルイン番号を設定しておけば、ダイヤルイン番号宛にかかってきた着信をその端末だけが応答するようにできます。**RT80i** ではアナログポートごとに電話番号を設定できるので、それぞれのポートを区別することができます。

グローバル着信機能は、ダイヤルイン機能のオプションです。NTT とのダイヤルイン契約時に 「グローバル着信利用」にすると、契約者回線番号への着信時には着番号が通知されず、ダイヤルイン番号への着信時には着番号が通知されます。この違いを利用して、ダイヤルイン番号と契約者回線番号を区別することができるわけです。

着信時の着番号通知のありなしと、**RT80i** へのダイヤルイン番号の設定、グローバル着信するかしないかによる着信の判断は以下の表のようになります。

着信時のアドレス通知 / **RT80i** のダイヤルインの設定		なし	あり	
			一致	不一致
なし	グローバル着信する	○	○	
	グローバル着信しない	×	○	
あり	グローバル着信する	○	○	×
	グローバル着信しない	×	○	×

2.3.10 サブアドレス無し着信

サブアドレス無し着信 機能は、サブアドレスを指定できる通信機器から **RT80i** のポートを指定して着信するかどうかの設定機能です。

着信時のサブアドレス通知のありなしと、**RT80i** へのサブアドレスの設定、サブアドレス無し着信するかしないかによる着信の判断は以下の表のようになります。

RT80i のサブアドレス設定 ＼ 着信時のサブアドレス通知		なし	あり	
			一致	不一致
なし	サブアドレスなし着信する	○	×	
	サブアドレスなし着信しない	×	×	
あり	サブアドレスなし着信する	○	○	×
	サブアドレスなし着信しない	×	○	×

2.3.11 相手により着信ベルを変える

着信ベルは、アナログ通信機器に着信があった時にアナログ通信機器から聞こえる音です。**RT80i** のアナログポートへの着信ベルは 3 種類のリズムがあり、0 番から 2 番までの番号で区別されます。

番号	説明
0	デフォルトの着信ベルです。
1	着信ベルリスト 1 を使った着信の使い分けを行なう場合の着信ベルです。
2	着信ベルリスト 2 を使った着信の使い分けを行なう場合の着信ベルです。

着信ベルリストは、登録者の電話番号と着信ベルを結び付けるもので、1 番と 2 番のリストがあります。例えば、着信の相手の番号が 1 番に登録されていると 1 番の着信ベルを鳴らします。1 番にも 2 番にも登録されていない相手からの着信時には 0 番の着信ベルが鳴ります。

なお、内線の着信ベルはこれらの外線着信ベルとは別です。

2.3.12 優先着信

優先着信機能とは、両方のアナログポートが着信可能な場合にはどちらのポートへ優先的に着信させるかを指定する機能です。

例えば、両方のポートにアナログ電話機が接続されていて、電話からの着信があった場合、TEL1 ポートが優先されていると TEL1 ポートの方だけで着信ベルが鳴ります。

優先着信の指定は次の 3 通りです。

- 指定無し
- TEL1 ポート
- TEL2 ポート

2.3.13 通信機器種別指定着信

アナログポートにはさまざまなアナログ通信機器が接続できます。**RT80i** では接続した通信機器と同じ通信機器からの着信だけに応答するようにすることができます。

例えば、TEL1 ポートに電話機を接続し、電話機からの着信があった場合にだけ TEL1 ポートの電話機の着信ベルを鳴らしたい場合。また、TEL2 ポートに G3 FAX を接続し、FAX から着信があった場合にだけ TEL2 ポートの FAX の着信ベルを鳴らしたい場合。

ISDN での着信時には、発信した相手の通信機器が何であるかという情報が指定される場合があります。**RT80i** はこの情報を解析し、アナログポートに接続された通信機器が設定により指定されていればこの情報と比較して、一致しているポートだけに呼び出しを行ないます。着信時にこの情報が無い場合には、両方のポートが呼び出されます。

指定できる通信機器種別は以下の通りです。

- 電話
- G2/G3 FAX
- 指定無し...(モデム等)

通信機器種別を判別した着信を行なわない場合には、全ての着信を受け付けます。
通信機器種別を判別した着信を行なう場合には、次の表に従って着信許可拒否が決定されます。

着信時の通信機器種別指定 **RT80i** の通信機器種別の設定	なし	あり	
		一致	不一致
電話	○	○	×
G2/G3 FAX	○	○	×
指定無し	○	×	

なお、この情報がルータからのものである場合には、ルータとして自動的に接続され、アナログポートへの呼出は行なわれません。

また、発信時には、設定した通信機器種別の情報が付きます。指定無しの設定の場合には、通信機器種別の情報は付きません。

2.3.14 識別着信

アナログポートには、識別着信リストと呼ぶリストがあり、このリストに一致した着信だけを許可したり拒否したりすることができます。識別着信リストへの登録は、１１０番と１１９番以外の番号を設定することができます。

RT80i への着信があると、まずルータとしての着信であるかアナログポートへの着信であるかが判定されます。アナログポートへの着信の場合、識別着信リストとその許可拒否の設定に基づいて、着信すべきものであれば、着信ベルリストに基づく着信ベルがなります。

識別着信リストはポート毎に設定でき、識別着信の許可拒否動作もポート毎に行なうことができます。

2.3.15 通信料金

ディジタルネットワーク機能とは独立して、アナログポートだけの通信料金情報を管理しています。
通信料金情報としては以下の項目がありそれぞれポート毎に管理されます。

- 直前の通信料金
- 累積通信料金

RT80i では指定したポートの累積通信料金をクリアすることができます。累積通信料金は、クリア操作の後からの通信料金を順次合計したものです。

2.4 設定とメモリ

RT80i に設定を行なう手段には次の 3 つの方法があります。

- コンソールを使って管理ユーザとなる。
- **RT80i** 本体に接続した PB 電話機のキー操作で行なう。
- **RT80i** に接続可能な LAN 上の WWW ブラウザを操作する。

1 番目のコンソールと管理ユーザについては、コンソールの使用方法の章 (27ページ) を参照してください。
2 番目の方法については、アナログ通信機能設定と操作の章 (47ページ) を参照してください。
3 番目の方法については、別冊の WWW 設定ガイドを参照してください。

設定内容の保存は不揮発性メモリに書き込んで保存します。不揮発性メモリ内のプログラム及び設定データは電源を OFF にしても内容が失われません。

なお、アナログ通信機能に関する設定の保存は、LAN 間接続機能とは独立して行なうことが可能です。例えば、PB 電話機のキー操作による設定の際は、 1 つの設定操作ごとにその設定内容が不揮発性メモリに保存されます。

MEMO

TFTP を利用して、ファイルにより設定や確認を行なう方法もサポートしています。これについては TFTP による設定と確認の項を参照してください。

2.5 停電時の動作

停電時には **RT80i** の全ての機能が停止します。また、DSU 機能も停止するため、アナログポートに接続したアナログ通信機器も使用不能となります。

停電により **RT80i** のシステム機能が停止した後、電源が回復すると自動的に不揮発性メモリの内容に従って再起動します。各種設定内容は不揮発性メモリに記録されていますので、停電、電源 OFF に関わらず内容が保存されます。
管理ユーザが設定を開始してから設定内容の保存のコマンドを実行する前までの設定内容は、不揮発性メモリに保存されないことに注意してください。

2.6 ISDN 網サービスの利用

RT80i では INS ネット 64 における以下のような網サービスをサポートしています。回線契約時には INS ネット 64 申込上の注意点 (74ページ) の項を参照してください。

2 チャネル同時通信

ISDN 網 (INS ネット 64) では、 1 本の回線で 2 つの情報チャネルが利用できます。

RT80i では 1 つ 1 つを別々のネットワークに接続することもできますし、 2 つのチャネルを 1 つのネットワーク通信に使用して高速な転送 (MP) を行なうことも可能です。

ダイヤルインまたはサブアドレスによる着信機器の指定

ISDN 網 (INS ネット 64) では、１本の回線で最大 8 台までのディジタル通信機器をバス接続できます。バス接続された通信機器を特定するためにダイヤルイン番号や、サブアドレスを指定する方法があります。

RT80i では ISDN 番号として 32 桁、サブアドレスとして 16 桁を使用することができます。

発信者番号通知

ISDN 網 (INS ネット 64) では発信者の番号を着信者に通知することができます。これを発信者番号通知サービスと言い、着信時にはこれを利用して相手先を特定し、通信パラメータなどを相手先毎に選択できます。また、**RT80i** では通信ログにこの発信者番号を記録しており、通信中にもこの番号を参照することができます。

この発信者番号通知サービスは、NTT との契約により利用できない場合があります。そのような場合でも **RT80i** は使用できますが、発信者番号通知サービスを受けている方がより柔軟な活用が可能となりますので、契約内容をご確認の上、NTT へご相談ください。

料金情報通知

通信終了時に通信料金の通知を受け取ることができます。**RT80i** ではこの料金情報を通信ログに記録し、通信毎の料金と累計料金を参照することができます。

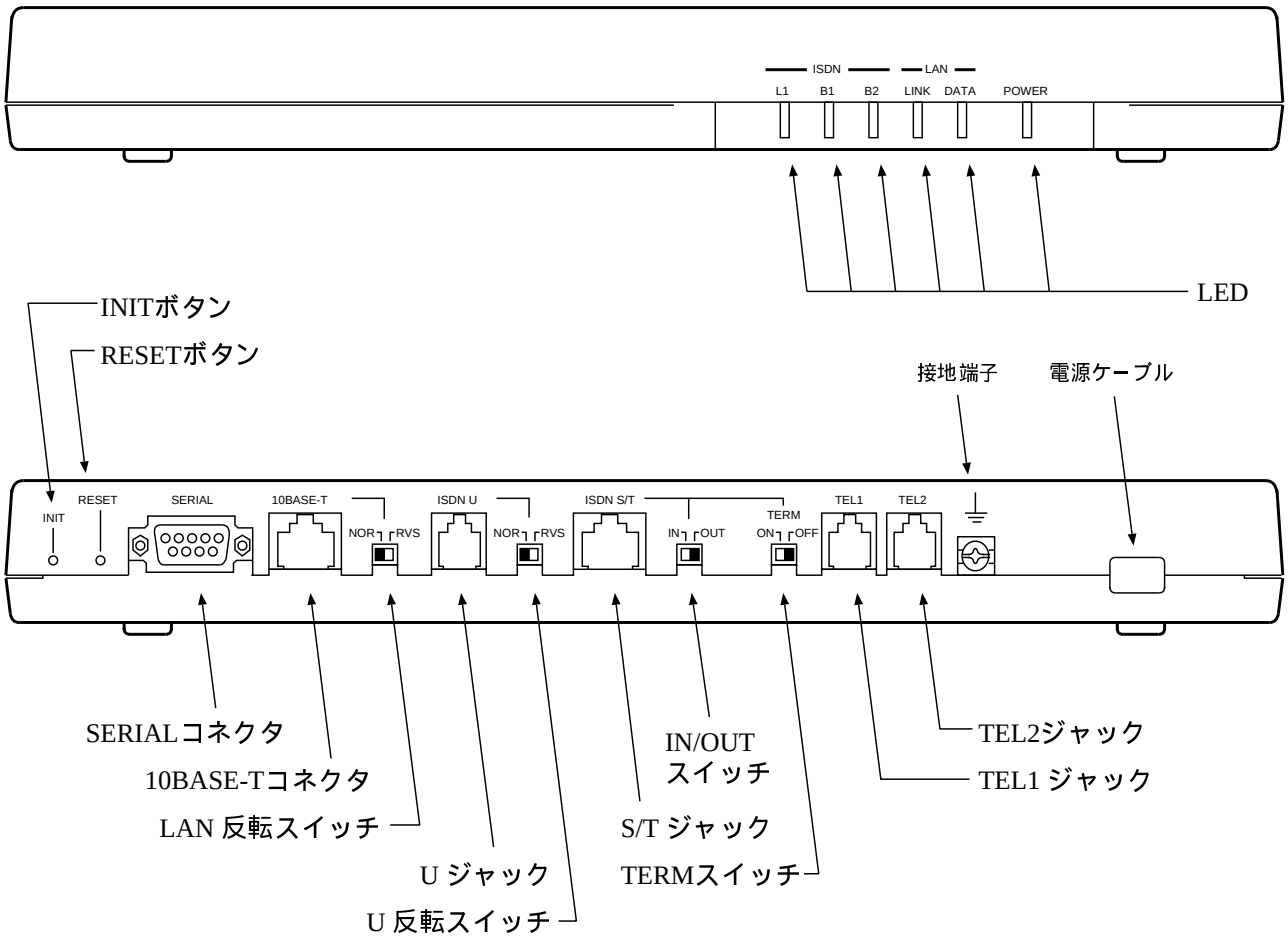
第 3 章　ハードウェアインストール

RT80i のインストール作業を行なう際の注意事項と、ネットワークや電源、コンソールを接続する手順を説明します。ハードウェアインストールでは以下の項目を説明します。

- ♣ 本体各部の名称と働き
- ♣ インストール作業の際の注意事項
- ♣ 設置場所について
- ♣ ケーブル接続上の制限
- ♣ インストール手順

3.1　本体各部の名称と働き

RT80i 本体のコネクタ、コード、端子、スイッチ、表示等の名称は以下の図を参考にしてください。

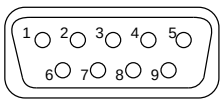


各部の名称と働きを一覧表にまとめます。

名称	働き
LED	電源 (POWER) とイーサネットインタフェースの LINK(10BASE–T) は、それぞれがアクティブな状態で点灯します。L1 LED は回線のレイヤ 1 状態を示します。回線 (B1, B2) と LAN インタフェースの DATA はデータの入出力時に点灯します。
INIT ボタン	このボタンを押しながら、電源を入れ直すか RESET ボタンを押すと本装置を工場出荷状態にもどします。
RESET ボタン	不揮発性メモリの内容に従って再起動します。
SERIAL コネクタ	RS-232C のシリアル端末を接続するためのコネクタです。ここにパーソナルコンピュータを接続する場合のシリアルケーブルはクロスタイプのものを使用します。
10BASE–T コネクタ	イーサネット規格の 10BASE–T ケーブル接続用のコネクタ (ジャック) です。
LAN 反転スイッチ	イーサネットの送信受信信号を交差します。通常 HUB はクロスポートですから、HUB と接続する場合には反転スイッチを NOR 側のままにしておきます。10BASE–T をもつパーソナルコンピュータやワークステーションと直結する場合だけ反転スイッチを RVS 側にします。
U ジャック	INS ネット 64 またはディジタル専用線に 直接接続するためのコネクタです。接続には付属の 6 ピン モジュラーケーブルを使用します。
U 反転スイッチ	U 点の送信受信信号を交差します。
S/T ジャック	INS ネット 64 またはディジタル専用線に 既存の DSU を経由して接続するためのコネクタです。なお、U ジャックに回線を接続した場合、IN/OUT スイッチを OUT にすることによって S/T 点バスとして使用することができます。接続には別途の 8 ピン モジュラーケーブルが必要です。
IN/OUT スイッチ	S/T を DSU に接続するか、端末に接続するかを設定します。S/T を DSU に接続する場合は IN 側、端末に接続する場合は OUT 側にします。
TERM スイッチ	S/T 点における終端抵抗を ON/OFF します。
接地端子	保安用接地端子です。ここに接地コードをネジ止めします。
TEL1, TEL2 ジャック	アナログ通信機器を接続するためのコネクタです。機能的にはどちらも全く同じです。
電源ケーブル	AC 100V, 50/60Hz の電源コンセントに接続します。

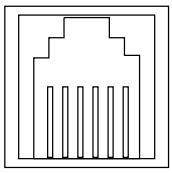
RT80i のコネクタのピン番号を以下に示します。

SERIALコネクタ



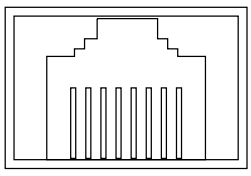
U ジャック

TEL1, TEL2 ジャック



S/T ジャック

10BASE-Tコネクタ



SERIAL コネクタのピン番号と信号の対応を示します。

ピン番号	略号	意味	備考
1	CD	入力	本装置では用いない
2	RD	入力	受信データ
3	SD	出力	送信データ
4	DTR	出力	常時 on
5	SG	—	信号グラウンド
6	DSR	入力	本装置では用いない
7	RTS	出力	常時 on
8	CTS	入力	本装置では用いない
9	RI	入力	本装置では用いない

3.2 インストール作業の際の注意事項

ハードウェアインストール時には、安全上の理由から、以下の電源及び接地に関する注意、ISDN インタフェースに関する注意、静電気に対する注意を守ってください。

RT80i は仕様上、分解を伴う設定は一切ありません。**RT80i** を分解したり、改造したりしないでください。感電等の危険や、故障の原因となる場合があります。

3.2.1 電源及び接地に関する注意

RT80i の電源を入れて電気的な異常が生じた場合には、まず、速やかに電源プラグをコンセントから外してください。

- 電源は AC100V(50/60Hz) のみ使用できます。
- 感電防止のため接地を行なってください。
- 電源事故防止のため電源コード、接地コードを痛めないようにしてください。
- 電源コンセントや電源コードの電流容量を確認し、**RT80i** を使用してもこの容量を越えない事を確認ください。
- 同一電源ライン上にノイズを発生する機器を接続しないようにしてください。

3.2.2 ISDN インタフェースに関する注意

U 及び S/T ジャックの端子部分に手を触れたり、金属を接触させたりして、感電やショートしないように注意してください。ISDN 回線のモジュラージャックの端子部分には高電圧がかかっています。

U 及び S/T ジャックにモジュラーケーブルを接続した場合も同様に、モジュラーケーブルの端子部分に手を触れたり金属を接触させたりして、感電やショートしないように注意してください。

また、**RT80i** 側の終端抵抗は S/T TERM スイッチにより切替が可能です。

終端抵抗付きのローゼットを使用した場合には **RT80i** の終端抵抗は OFF にします。

終端抵抗無しローゼットを使用する場合と、DSU に直結する場合には **RT80i** の終端抵抗は ON にします。

3.2.3 静電気に対する注意

RT80i 内部の LSI を静電気により破壊しないために次の注意事項を守ってください。

- 静電気を発生し易いセーターや化学繊維の衣服を着用してインストール作業を行なうことは避けてください。
- 静電気を発生する恐れのある環境下でシャーシに触れる場合は、リストストラップ等の静電気防止用具を使用するようにしてください。

3.3 設置場所について

RT80i の動作不良や故障の原因になるおそれがありますから、以下のような環境下に設置しないでください。

- 極端に温度や湿度の高い所や低い所
- 放熱を妨げる所、通気性の悪い所
- 水のかかる所
- 無線機やテレビなどからの電磁波、磁気の強い所
- 埃の多い所
- 振動のある所、不安定な場所
- 薬品類の気化している所

3.4 ケーブル接続上の制限

モジュラーケーブルは付属品を使用してください。

また、DSU 及び RJ–45 モジュラージャックまでの宅内配線は、資格のある工事担任者が行なってください。

配線済みまたは工事後であれば、付属のモジュラーケーブルは RJ–45 モジュラージャックに一般のユーザが取り付けることができます。

3.5 インストール手順

RT80i のインストール手順について説明します。ケーブル配線を中心とした手順は以下を参考にして行なってください。実際の作業に際しては、上記の注意事項と制限事項を必ず守ってください。

1. 必要なイーサネットケーブル、シリアルケーブル、端末の準備
2. 設置場所の確保
3. イーサネットケーブルの接続
4. ISDN またはディジタル専用線の接続
5. シリアル端末の接続
6. アナログ通信機器の接続
7. 電源コードの接続

3.5.1 必要なイーサネットケーブル、シリアルケーブル、端末の準備

RT80i を接続するイーサネット LAN のタイプに応じて設置場所までに必要な長さの 10BASE–T のケーブルを用意してください。この時の長さには制限があることに注意してください。

RT80i への設定を **RT80i** の SERIAL ポートに接続した端末から行なう場合には、シルアル端末と、シリアル端末に接続するシリアルケーブルが必要になります。このシリアルケーブルは、**RT80i** 側が D-sub 9 ピンタイプで、端末側は端末のコネクタに合わせたクロスタイプのものを用意してください。

また、パーソナルコンピュータをシリアル端末として使用する場合には、パーソナルコンピュータのシリアルポートを制御する通信ソフトが必要です。例えば、Windows 95 であればハイパーターミナルを使用します。

3.5.2 設置場所の確保

前述の設置場所についての指示を守るようにしてください。

3.5.3 イーサネットケーブルの接続

10BASE–T と **S/T** ジャックは同一形状の **RJ–45** コネクタになっています。これらを間違えて接続するとハードウェアの破壊、故障に継りますから十分に確認してから接続するようにしてください。

次に、HUB に接続する場合、10BASE–T でパーソナルコンピュータやワークステーションに直結する場合に分けてイーサネットケーブルの接続手順を説明します。

■ **HUB** に接続する場合

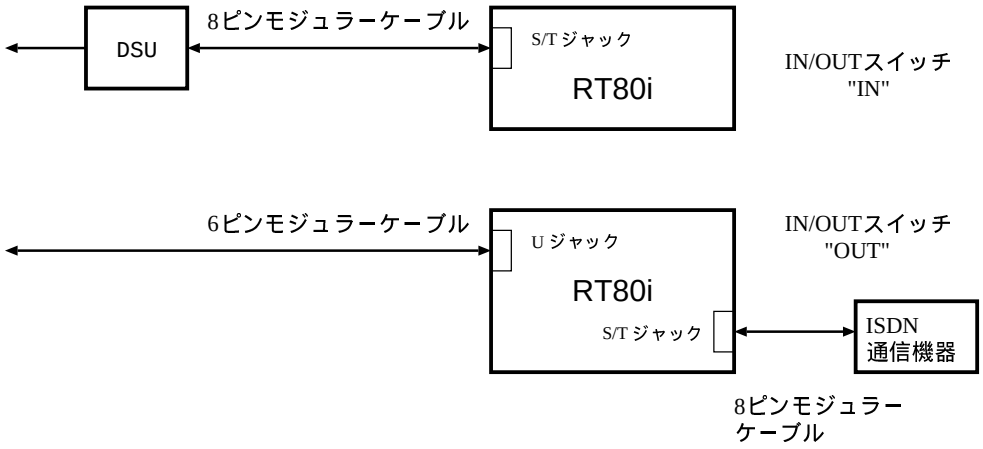
1. HUB のポートが、クロスポートかストレートポートかを確認します。確認は HUB の取扱説明書を参照してください。
2. HUB 側のポートがストレートポートの場合には、**RT80i** の LAN 反転スイッチを “RVS” 側に切替えます。通常は “NOR” 側にします。
3. HUB と **RT80i** 設置場所までに必要な長さの 10BASE–T ケーブルを配線します。
4. **RT80i** 側の 10BASE–T と書かれたポートに 10BASE–T ケーブルを接続します。
5. 10BASE–T ケーブルの LAN 側を HUB に接続します。

■ **10BASE–T** でパーソナルコンピュータやワークステーションに直結する場合

1. **RT80i** の LAN 反転スイッチを “RVS” 側に切替えます。
2. パーソナルコンピュータやワークステーションと **RT80i** 設置場所までに必要な長さの 10BASE–T ケーブルを配線します。
3. **RT80i** 側の 10BASE–T と書かれたポートに 10BASE–T ケーブルを接続します。
4. 10BASE–T ケーブルの反対側をパーソナルコンピュータやワークステーションに接続します。

3.5.4 回線の接続

RT80i を回線へ接続する場合には、内蔵の DSU 機能を使用するか、外付けの DSU を使用するかによって接続の系統が異なります。接続系統の違いを以下の図に示します。



10BASE–T と **S/T** ジャックは同一形状の **RJ–45** コネクタになっています。これらを間違えて接続するとハードウェアの破壊、故障に継りますから十分に確認してから接続するようにしてください。

専用線との接続では、終端抵抗付きローゼット経由で接続してください。また終端抵抗無しのローゼットの場合は、S/T TERM スイッチで終端抵抗を ON にしてください。

- **DSU** に直接接続する場合
  1. **RT80i** の S/T ジャックにモジュラーケーブルの一端を接続します。
  2. IN/OUT スイッチを “IN” 側にします。
  3. モジュラーケーブルの他端を DSU 側のモジュラージャックに接続します。
- **DSU** を介さないで回線に直接接続する場合
  1. **RT80i** の U ジャックに附属の 6 ピンモジュラーケーブルの一端を接続します。
  2. IN/OUT スイッチを “OUT” 側にします。
  3. モジュラーケーブルの他端を回線側のモジュラージャックに接続します。

3.5.5 シリアル端末の接続

1. シリアル端末の設定を、9600 bit/s、キャラクタ長 8bits、パリティ無し、1 ストップビットに設定します。
2. シリアル端末の電源を OFF にします。
3. **RT80i** の SERIAL ポートに用意したクロスケーブルを接続します。
4. クロスケーブルとシルアル端末を接続します。

3.5.6 アナログ通信機器の接続

1. アナログ通信機器に 6 ピンモジュラーケーブルを接続します。 (アナログ通信機器のためのモジュラーケーブルは本製品に附属していません)

2. **RT80i** の TEL1, TEL2 ジャックにモジュラーケーブルを接続します。

3.5.7 電源コードの接続

1. **RT80i** の GND 端子を接地します。

2. 電源プラグを電源コンセントに差し込みます。

第 4 章　コンソールの使用方法

RT80i に各種設定を行なったり環境を参照するためのコンソールについて説明します。コンソールの使用方法では以下の項目を説明します。

- ♣ コンソールの位置付け
- ♣ コンソールの端末パラメータについて
- ♣ コンソールの使用方法について
- ♣ コマンドシンタックス
- ♣ ヘルプ機能
- ♣ コマンド入力の補助機能について
- ♣ アクセスレベルとパスワードについて

MEMO

WWW ブラウザを用いた設定については別冊の 『WWW 設定ガイド」をごらんください。

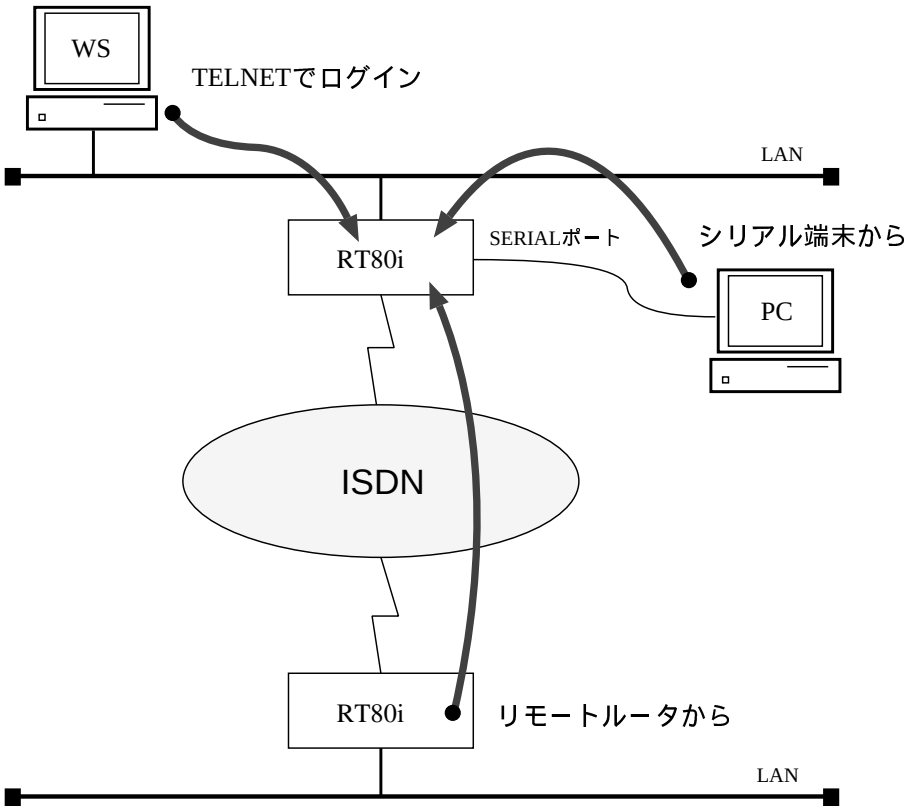
4.1　コンソールの位置付け

RT80i に各種の設定を行なうためには、**RT80i** 本体の SERIAL ポートに端末を接続する方法と、LAN 上のホストから TELNET でログインする方法、回線を介して別の YAMAHA リモートルータからログインする方法の 3 つがあります。

これらの手段により対話的に設定を行なうことを、コンソールからの設定と呼ぶことにします。

RT80i へのアクセス方法
RT80i 本体の SERIAL ポートに接続した端末からアクセス
LAN 上のホストから TELNET でログイン
ISDN 回線を介して別の YAMAHA リモートルータからログイン

RT80i へは、それぞれに対して1 ユーザがアクセスすることができます。その中で管理ユーザになれるのは同時には 1 ユーザだけです。例えば、シリアル端末でアクセスしているユーザが管理ユーザとして設定を行なっている場合には、別のユーザが一般ユーザとしてアクセスすることはできても管理ユーザになって設定を行なうことはできません。



ご購入直後は IP アドレスが 192.168.0.1(ネットマスクは 24 ビット) に設定されています。初期設定を行なうためには、LAN 上のコンピュータから WWW ブラウザを用いるか、SERIAL ポートに接続したシリアル端末から行ないます。

4.2 コンソールの端末パラメータについて

シリアル端末に対する端末パラメータのデフォルト値は以下のようになっています。

端末パラメータ	デフォルト値
データ伝送速度	9600bit/s
キャラクタビット長	8
パリティチェック	無し
ストップビット数	1

端末パラメータを前述のデフォルト値で使用しない場合には、**RT80i** 側の設定を変更することができます。ただし変更するコマンドは、上記の端末パラメータの端末で実行する必要があります。

4.2.1 表示する文字セットの選択

コンソールに表示する文字セットは、端末の文字表示の能力に応じて選択します。SERIAL ポートの出力は、**console character** コマンドを使用して、次の表に示す 3 つの中から 1 つ選択することができます。

表示する文字セット	説明
ASCII	ASCII 文字のみを表示する
SJIS	ASCII 文字とシフト JIS 漢字を表示する
EUC	ASCII 文字と EUC 漢字を表示する

文字セットが ASCII の場合には、エラーメッセージや、ヘルプメッセージ、**show** コマンドを実行した時の表示内容は英文になります。文字セットが SJIS と EUC の場合には、これらが日本語になります。
いずれの場合でもコマンドの入力文字は ASCII で共通であることに注意してください。
デフォルトは、SJIS です。

次に、コンソールに表示する文字セットを ASCII コードに変更する場合の設定の例を示します。

```
# console character ascii
```

4.3 コンソールの使用方法について

RT80i の電源を ON にすると、**RT80i** の出すメッセージが SERIAL ポートに接続されたコンソールに表示されます。システムが起動して準備が整うと通常ログイン待ちの状態になります。
また、TELNET でログインしても同様な表示が現れます。

```
Password:
```

ログインを完了するとコマンド待ちの状態になり、各種コマンドが実行できます。

```
RT80i Rev.2.02...(略)
00:a0:de:01:23:45
Memory 4Mbytes, 1BRI
>
```

セキュリティの観点から、コンソールにキー入力が一定時間無い時には、自動的に 300 秒 (デフォルト値) でログアウトするように設定されています。この時間は **login timer** コマンドを使用して変更することができます。

次に、コンソール使用に際しての理解を助けるために、コンソールからのコマンド入力形式、キーボード入力の編集、キーボード入力に対するエラーメッセージについて説明します。

4.3.1 コマンド入力形式

コマンド入力形式は一般的なライン入力で、プロンプトの後ろにコマンドを一行入力し、Return キーを押すと実行されます。
プロンプトは以下のようにアクセスレベルに応じて異なる表示をし、アクセスレベルが一般ユーザであるか、管理ユーザであるか判別できるようになっています。

一般ユーザのプロンプト ：

```
>
```

管理ユーザのプロンプト ：

```
#
```

RT80i は、通常キーボード入力された文字が大文字か小文字かを区別せずに扱います。このルールの例外は、各種のパスワードそのものを入力する時とサブアドレス入力の時だけです。

4.3.2 画面表示

一画面に収まらない行数の情報を表示する場合は、**console lines** コマンドで設定された行数分を表示した段階で表示をストップさせ、画面下に以下のような表示を行ないます。

```
---つづく---
```

この状態から残りを表示させる場合には、スペースキーを押します。Return キーを押すと新しい一行を表示します。これらの操作を繰り返し、最後まで表示すると自動的にコマンド入力ができる状態にもどります。

最後まで表示せずにこの段階で表示を終了させたい場合には、q キーを押します。この後コマンドが入力できる状態にもどります。

一画面に収まらない行数の情報を表示する場合にもストップさせたくなければ、次のように設定します。

```
> console lines infinity
```

4.3.3 キーボード入力の編集

キーボード入力した文字を一文字分訂正する場合には、キーボードの BS キーや Del キーを押して一文字削除します。

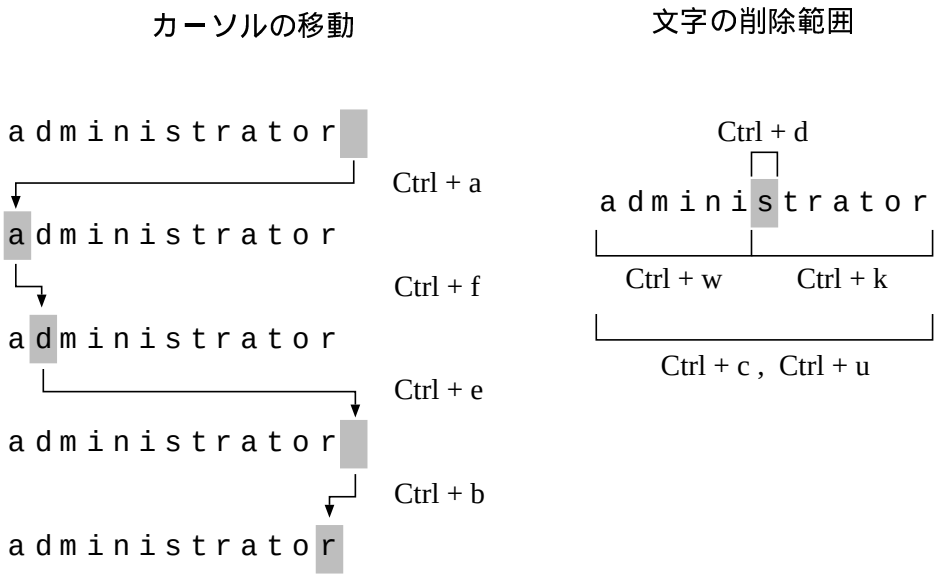
文字入力中にカーソルキーでカーソルを移動した場合、次に入力される文字はカーソルの位置に挿入されます。

また、コマンドライン上で Ctrl キーを押しながら b キーを押すとカーソルが左に移動し、Ctrl キーを押しながら f キーを押すとカーソルが右に移動します。

その他の操作も含めて、キーボード入力の編集で使用可能な操作方法とその意味を一覧表で示します。Ctrl キーを押しながら X キーを押すことを “Ctrl + X” と表記しています。

キー操作	意味
Ctrl + a	カーソルを行頭に移動
Ctrl + b	カーソルを左へ 1 文字分移動
Ctrl + c	入力行をクリア
Ctrl + d	カーソル上の 1 文字を削除
Ctrl + e	カーソルを行末に移動
Ctrl + f	カーソルを右に 1 文字分移動
Ctrl + k	カーソル以降の文字を削除
Ctrl + u	入力行をクリア
Ctrl + w	カーソル前の文字を削除

カーソルの移動と文字削除の関係を図示します。



4.3.4 キーボード入力のエラーメッセージ

コマンド名称が不適切であったり、コマンドのパラメータ数が不適切であったり、パラメータが指定できる範囲を越えた場合などには、Returnキーを押した後にコンソール画面にエラーであることを表示します。次の例は、省略できないパラメータを入力しなかった場合のエラーメッセージです。

```
> console lines
エラー：　パラメータの数が不適当です
```

MEMO

RT80i が出すエラーメッセージには、上記のコマンド操作に関するものの他に通信上のエラーメッセージがあります。通信上のエラーメッセージは 通信ログとして記録されます。

4.4 コマンドシンタックス

RT80i で使用するコマンドのシンタックスを説明します。

コマンドの名称は、複数のキーワードをスペースで区切って並べた構造になっており、コマンドを分類した時の階層構造を反映しています。

例えば、コマンド名称の先頭部分は主に次の 11 つのキーワードが使われ、それぞれ次のような分類を意味しています。

先頭キーワード	分類
clear	データを削除するコマンドであることを表します。
console	コンソールに関するコマンドであることを表します。
dhcp	DHCP サーバ / リレーエージェント機能に関するコマンドであることを表します。
ip	TCP/IP に関するコマンドであることを表します。
isdn	ISDN 回線に関するコマンドであることを表します。
pp	相手先情報に関するコマンドであることを表します。
ppp	PPP に関するコマンドであることを表します。
show	**RT80i** の設定内容や通信ログ等の記録を参照するコマンドであることを表します。
syslog	SYSLOG に関するコマンドであることを表します。

コマンドの名称部分とパラメータの部分の区切りには 1 個以上のスペースを入れます。

コマンドのパラメータには、**RT80i** で決められたキーワードを指定する場合と、パスワードのようにユーザが任意に設定する文字列があります。後者の場合、一般的に空白文字を含ませることはできません。

4.5 ヘルプ機能

RT80i では、コンソールの使用方法を表示する機能と、コマンドの完全名称を忘れた場合やコマンドのパラメータの詳細が不明な場合に役立つ 2 つのヘルプ機能をサポートしています。

ヘルプ機能で提供するのはあくまで簡略な情報に過ぎませんから、コマンドの詳細な説明や注意事項、設定例などは、この取扱説明書や別冊のコマンドリファレンスを参照するようにしてください。

4.5.1 コンソールの使用概要の表示 (help コマンドの実行)

コンソールの使用方法の概要が知りたい場合には、**help** コマンドを使用します。

```
> help
```

4.5.2 コマンド名称一覧の表示

コンソールにコマンド名称とその簡単な説明の一覧を表示させることができます。この場合には **show command** コマンドを使用します。

これにより類似したコマンドの差異を知ることができます。

```
> show command
```

4.5.3 コマンド完結候補の表示 (? キーの入力)

コマンド名称を入力する前、または入力途中で ? キーを入力すると、完結するコマンドのキーワード部分の候補の一覧を表示します。新しいコマンドラインには ? キーを入力する前の部分まで表示されます。

次に、コンソールから “cons” まで入力した時の実行例を示します。この場合は “cons” に続くキーワードの候補が表示されます。

```
# cons?
?  console
# cons
```

次に、コンソールから “console ” まで入力した時の実行例を示して比較してみましょう。この場合は “console” というひとつのキーワードがすでに完結しているので、“console” に続くキーワードの候補が表示されます。キーワードと “?” の間にスペースがあることに注意してください。

```
# console ?
?  character columns info lines prompt
# console
```

コマンド名称が確定した後で ? キーを入力するとコマンドの入力形式と説明を表示します。

4.6 コマンド入力の補助機能について

コンソールでのキーボード入力を補助する機能として、コマンドヒストリ機能、コマンド名称補完機能があります。

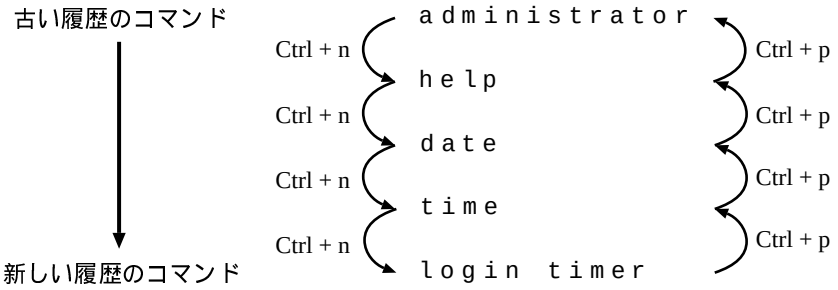
4.6.1 コマンドヒストリ機能

↑ キー、または Ctrl キーを押しながら p キーを押すと、それまでに入力実行したコマンドを順次過去にさかのぼってコマンドラインに呼び出せます。

↓ キー、または Ctrl キーを押しながら n キーを押すと、現在表示されているコマンドの次に実行したコマンドをコマンドラインに呼び出せます。

以下にコマンドの呼び出しについて図示します。

ヒストリ機能



呼び出したコマンドは直接入力するコマンドの場合と同様に、Delキーや BS キーで削除したり編集することができます。

その場合にも、カーソルキーを移動させることができ、←キー、または Ctrl キーを押しながら b キーを押すとカーソルが左に移動し、また逆に→キー、または Ctrl キーを押しながら f キーを押すとカーソルが右に移動します。

4.6.2 コマンド名称補完機能 (Tab キーの入力)

コマンド名称を入力している途中で、Tab キーを押すことにより、確定する部分までのコマンド名称やパラメータのキーワードを補完することができます。

Tab キーによりコマンド名称が確定するとその後ろにスペースを一つあけた状態になり、コマンド名称の残りのキーワードか、そのコマンドのパラメータを入力する状態になります。この機能を常時使用することで、タイプミスを防ぐことにもなります。

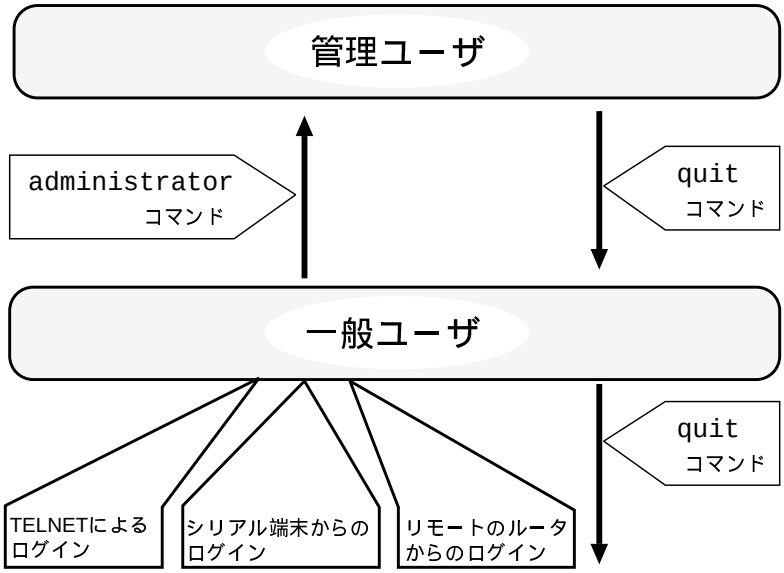
4.7 アクセスレベルとパスワードについて

4.7.1 アクセスレベル

コンソールにログインするユーザは一般ユーザと管理ユーザの 2 つに分類されます。これをアクセスレベルと呼びます。

次にアクセルレベルの分類とその違いを一覧表にします。

アクセスレベル	説明
一般ユーザ	**RT80i** の設定内容や通信ログを参照することができます。ログインパスワードが設定されていると、ログイン時にログインパスワードの入力を要求されます。
管理ユーザ	**RT80i** の設定を行なうことができます。一般ユーザで利用可能なコマンドはすべて使用することができ、一般ユーザの上位に位置します。管理パスワードが設定されていると、管理ユーザになるために一般ユーザのレベルから管理パスワードの入力を要求されます。



この 2 つのアクセスレベルは、**RT80i** がコンソールに表示するプロンプトに反映されます。

M E M O

アナログ PB 電話機による設定や、WWW ブラウザからの設定においては、管理ユーザと一般ユーザを意識しないで設定できます。ただし、WWW ブラウザから設定を行なう場合には管理パスワードが必要です。

4.7.2 パスワード

パスワードには、アクセスレベルに対応して、ログインパスワードと管理パスワードの 2 種類があります。

ご購入直後には、ログインパスワードも管理パスワードも設定されていません。

いずれのパスワードも 8 文字以内の連続した ASCII 文字を設定します。パスワードは管理者だけが分かるような意味のある文字列にするとよいでしょう。反対に誰でも容易に想像、連想できるようなパスワードはすぐに破られてしまいますから好ましくありません。例えば、“ROUTER” というようなパスワードは容易に考え付くので好ましくありません。また辞書に載っているような一般名詞も検索されやすいので好ましくありません。

⚠注意

ユーザが直接ログインパスワードと管理パスワードの設定を参照することはできません。忘れないようにしてください。

第 5 章　起動 ・終了と初期設定

RT80i の起動 ・終了方法と、初期設定について説明します。初期設定とは、**RT80i** に必要最小限の設定を行なうことです。ここでは、**RT80i** の概要とコンソールの使用方法を理解し、ハードウェアのインストールが終了していることを前提にしています。起動 ・終了と初期設定では以下の項目を説明します。

- ♣ 起動前の準備と確認
- ♣ 起動プロセス
- ♣ 初期設定について
- ♣ 終了手順と確認事項

5.1　起動前の準備と確認

ご購入後の最初の起動前には、前章のハードウェアインストールが正しく行なわれているか、また注意事項が守られているかを再度確認してください。

5.2　起動プロセス

RT80i の電源スイッチを ON にすると起動を開始します。まずシステムの動作と不揮発性メモリ内容のチェックが行なわれます。

ご購入後の最初の起動時にはデフォルト設定に設定されます。デフォルト設定として注意すべき事項を次の表で示します。
詳細についてはコマンドリファレンスを参照してください。

項目	コマンド名称	デフォルト設定内容
セキュリティクラス	security class	1, on, off
ルーティング	ip routing	on
ルーティング関係	ip lan routing protocol	rip
端末パラメータ	console character	sjis
	console columns	80
	console info	off
	console lines	24
	console prompt	文字列無し
ログインタイムアウト	login timer	300
回線種別	pp line	isdn
IP アドレス関係	ip lan address	192.168.0.1/24
	ip lan broadcast	1
Proxy ARP	ip lan proxyarp	off

5.3 初期設定について

RT80i に誤った設定を行なうと、ネットワーク全体に大きな被害を与える危険性があります。管理ユーザはその点を十分認識して設定を進めてください。

RT80i のご購入直後の起動では、コンソールから各種の設定が行なえる状態になりますが、実際にパケットを配送する動作は行ないません。

パケットの配送を行なうためには、ISDN 番号と少なくとも 1 つの相手先情報の 2 つを設定する必要があります。詳しくは本取扱説明書の設定についてとクイックスタートガイドの各設定例の章を参照してください。

初期設定としてはセキュリティ上、ログインパスワードと管理パスワードの設定をお勧めします。

5.3.1 ログインパスワードと管理パスワードの設定

ログインパスワードと管理パスワードのどちらも管理ユーザが設定します。従って、管理パスワードだけを忘れた場合でも、ログインパスワードが変更できませんから、その後のパスワードの変更が一切行えなくなります。

ログインパスワードを設定する場合には、**login password** コマンドを使用します。ログインパスワードは 8 文字以内の ASCII 文字で、一般のコマンドの使用時とは異なり、大文字と小文字は区別して扱われます。

次にログインパスワードを変更する場合の例を示します。

```
>administrator
Password:
# login password
Old_Password:
New_Password:
New_Password:
# save
```

セキュリティの観点から、ログインパスワードを端末の画面上で確認することはできません。

管理パスワードを設定する場合には、**administrator password** コマンドを使用します。管理パスワードは 8 文字以内の ASCII 文字で、一般のコマンドの使用時とは異なり、大文字と小文字は区別して扱われます。

次に管理パスワードを変更する場合の例を示します。

```
>administrator
Password:
# administrator password
Old_Password:
New_Password:
New_Password:
# save
```

セキュリティの観点から、管理パスワードを端末の画面上で確認することはできません。

5.4 終了手順と確認事項

RT80i を停止させる場合には、次の手順で終了します。

但し、**RT80i** の故障や通信の異常、セキュリティの問題等の緊急の場合はこの限りではありませんから、すぐに電源スイッチを **OFF** にします。

1. ISDN 回線側の接続状態を **show status bri** コマンドでチェックします。接続中の場合は **disconnect** コマンドで強制的に手動切断します。
2. 電源スイッチを OFF にします。

ISDN 回線側の接続状況を確認する場合の例を示します。

```
> show status bri 1
どことも接続されていません
```

第 6 章　設定について

ここでは **RT80i** の設定操作の注意点と、流れをつかんでください。設定についてでは以下の項目を説明します。

- ♣ 一般的な注意事項
- ♣ 設定操作の流れ
- ♣ 設定情報と不揮発性メモリへの保存
- ♣ 設定操作の分類
- ♣ 設定をデフォルトにもどす方法

6.1　一般的な注意事項

以下に設定を行なう際の注意事項を列挙します。管理ユーザは十分に注意を払ってください。

- 説明の中では、設定の例を示すために具体的な ISDN 番号や IP アドレスを使用しています。これらはあくまでも例ですから、その番号やアドレスがどこかを確認せずに実際に使用しないでください。
- **RT80i** を接続する現在のネットワークまたは、これから構築するネットワークの状況や内部及び外部環境を把握してください。
- 複数のコマンドを組み合わせて使用するもの、または、組み合わせることによってさまざまな効果を生むものについては、各設定の説明箇所に注意事項があるので必ず参照してください。

これ以降の説明では次のような状況を前提としています。それぞれの項目が具体的に十分わからない場合は、まず取扱説明書の該当部分の記述を理解してから作業を進めるようにしてください。

- ハードウェアインストールは終了している
- SERIAL ポートに端末が接続されていてここからコマンド入力を行なえる状態、または LAN 上のホストかリモートの **RT80i** からアクセス出来る状態である
- 初期設定が終了した状態であり、それ以上の設定は全く行なわれていない
- 構築すべきネットワークの形態が明確になっている

6.2　設定操作の流れ

6.2.1　設定の開始

設定は管理ユーザのみが行なうことができます。従って、一般ユーザとしてログインした後、**administrator** コマンドで管理ユーザとしてアクセスしてください。この時管理パスワードが設定してあれば、管理パスワードの入力が必要です。

```
> administrator
Password:
#
```

回線を接続していない相手の相手先情報を変更する場合には、**pp disable** コマンドを実行してから相手先情報の内容を変更してください。回線が接続されている場合には、**disconnect** コマンドでまず回線を手動切断しておきます。

相手先情報の内容変更が終了したら、**pp enable** コマンドを実行し、その後 **save** コマンドを実行するという手順になります。

6.2.2 設定の確認

RT80i に新しい設定を施した場合は、その設定内容を確認してください。
設定内容の確認には次の 3 つの方法があります。

確認方法	確認のしかた
すべての設定を画面上で確認	**show config** コマンドを実行して、デフォルトと異なる設定内容だけをコンソール画面上に表示します。
特定の設定を画面上で確認	**show** で始まるコマンドを実行して、コンソール画面上に必要な設定内容を表示します。
設定ファイルの形で確認	TFTP が利用できるホスト上から設定ファイルを読み出して、そのファイルをホスト上で参照します。設定ファイルにはすべての設定内容が記録されています。

次に、すべての設定内容を **show config** コマンドを使用してコンソール上で確認する例を示します。

```
# show config
```

6.2.3 設定の終了

設定変更を行ないその設定内容を確認したら、必ず設定内容を不揮発性メモリに保存してください。

```
# save
セーブ中．　．　．
セーブ終了
#
```

設定を保存しない場合は再起動の前後で動作が異なる場合があるので十分に注意してください。

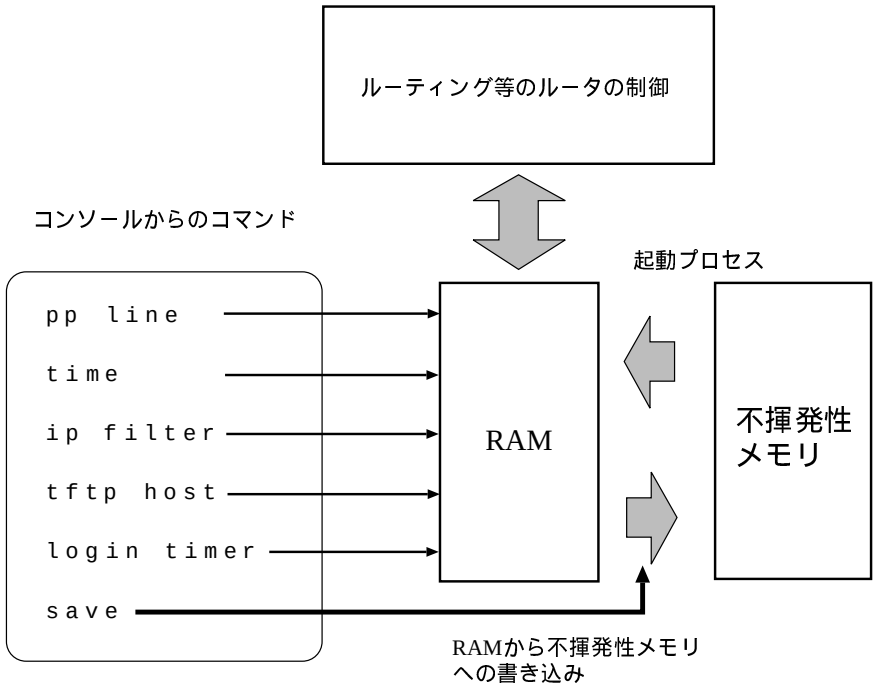
なお、単独で **save** コマンドを実行するのではなく、管理レベルを終了する時点でこの設定内容を不揮発性メモリに書き込むこともできます。その場合には、**quit** コマンドに次のように **save** オプションを指定して実行します。

```
# quit save
```

save コマンドを実行せずに **quit** コマンドを実行すると、保存するかどうかを問い合わせられます。

6.3 設定情報と不揮発性メモリへの保存

RT80i のルーティングや、フィルタリング、回線への発信着信などの動作はすべて **RT80i** 内部のメモリに記録された設定情報に基づいておこなわれます。



設定変更を行なう前には必ず **pp disable** コマンドを実行します。

pp disable コマンドを実行すると、指定した相手先情報に対するパケットの扱いを中止し、設定途中の削除や変更に伴う不安定な状況の影響をなくすことができます。

pp enable コマンドを実行すると、パケットの処理を再開します。

管理ユーザが設定コマンドを実行すると **RT80i** の動作にすぐに反映されますが、すぐに設定内容が不揮発性メモリに書き込まれるわけではありません。設定内容を保存する **save** コマンドを実行することによってはじめて不揮発性メモリに書き込まれます。

従って、設定コマンドを実行した後、管理ユーザから一般ユーザにもどる場合には、管理ユーザになった時点からの設定内容を不揮発性メモリに書き込むかどうかに対して十分な注意が必要です。

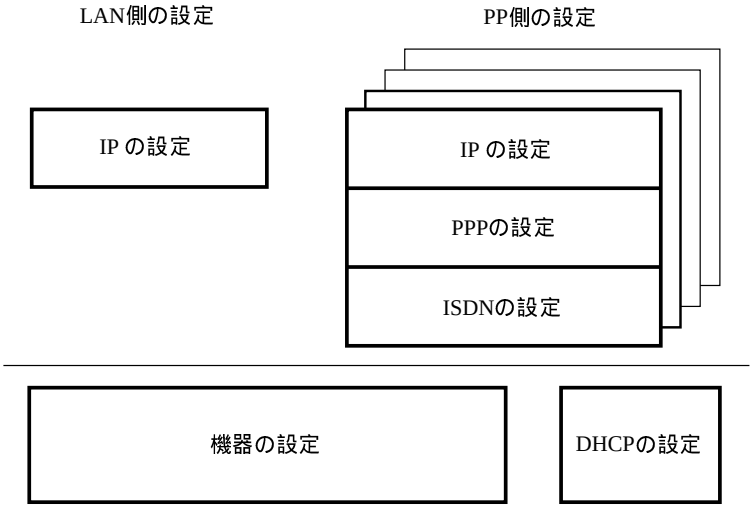
以下に、設定操作の流れをまとめます。

設定操作	説明
administrator	設定の開始
↓	
pp disable	パケットの扱いの中止
↓	
設定コマンド	必要な設定を行ないます
↓	
↓	
(**show config**)	設定内容を確認します
↓	
pp enable	パケットの扱いの再開
↓	
save	不揮発性メモリへの保存
↓	
quit	設定の終了

6.4 設定操作の分類

RT80i にはさまざまな設定項目がありますが、それらは次の図に示すように分割して考えることができます。

設定操作の分類



まず、**RT80i** そのものに関する設定と、ネットワークに関する自動設定を可能にする DHCP の設定があります。これらは実際のパケットの配送とは独立していると捉えることができます。

また、実際のパケットを扱う部分は、LAN 側と相手先毎の PP 側の設定に分けて捉えることができます。PP 側は接続する相手先の数だけ同じ構造があることになります。

LAN 側はイーサネットインタフェースだけを持ちますから、IP パケット経路制御に関する設定しかありません。

一方 PP 側は、回線の接続切断といった ISDN に関する設定、回線が接続されたあとの PPP の認証や圧縮などのネゴシエーションに関する設定、そして、IP パケット経路制御に関する関する設定というよ

うに 3 段階のレベルがあります。PP 側と通信するためには、これらのすべてが適正に設定されている必要があります。

6.5 設定をデフォルトにもどす方法

設定をデフォルトにもどす場合には、もどす対象に応じて使用するコマンドが異なります。

次に、相手先の情報をデフォルトにもどす場合と、**RT80i** 全体の設定を工場出荷直後の状態にもどす場合に分けて説明します。

6.5.1 相手先情報をデフォルトにもどす

相手先情報の設定内容をデフォルトにもどす場合には、**pp default** コマンドを使用します。デフォルトにもどす対象に応じて、次の 3 つのパラメータをとることができます。

パラメータ	意味
相手先情報の番号	指定した番号の相手先情報の内容をデフォルトに戻します。具体的には 1 から 30 までの整数です。
anonymous	発信者番号が不明か登録されていない場合に回線を接続する時の設定情報の内容をデフォルトに戻します。
leased	ディジタル専用線で接続する時の設定情報の内容をデフォルトに戻します。

各種コマンドの具体的なデフォルト値についてはコマンドリファレンスを参照してください。次に、相手先情報番号 1 の内容をデフォルトに設定する場合の例を示します。

```
# pp default 1
```

M E M O

pp default コマンドを実行しても、**ip pp route add** コマンドで静的に設定した経路情報は削除されません。

6.5.2 すべての設定を工場出荷直後の状態にもどす

すべての設定を工場出荷直後の状態にもどす場合には、**cold start** コマンドを使用します。このコマンドを実行すると管理パスワードの入力を要求されます。管理パスワードの照合が確認されると、デフォルト値が存在する設定はすべてデフォルトになり、フィルタの定義や IP アドレスなどの情報は消去され、不揮発性メモリの内容を書き換えます。その後 **RT80i** は自動的に再起動します。

cold start コマンドに際しては以下の点に注意してください。

- **cold start** のコマンド実行には管理パスワードが必要です。
- 実行した直後にすべての通信が切断されます。
- デフォルト値が存在する設定はすべてデフォルトに変更されます。
- フィルタの定義や登録されたアドレスは消去されます。
- **save** コマンド無しで不揮発性メモリの内容が書き換えられますから、元に戻すことができなくなります。

第 7 章　アナログ通信機能の設定と操作

ここでは、アナログ通信機能に関する具体的な設定と操作方法を解説します。アナログ通信機能の設定と操作では以下の項目を説明します。

- ♣ 設定について
- ♣ PB 電話機からの設定
- ♣ 操作手順

7.1　設定について

RT80i が提供するアナログ通信機能の使用には、設定の不要なものと必要なものがあります。
以下の機能の使用には設定は不要です。

- 外線発信
- 内線通話
- 代理応答
- 内線転送
- 親子電話

以下の場合には設定が必要です。

- 発信者番号通知
- 即時発信を使用する使用しない
- ダイヤルイン、グローバル着信機能を利用する
- サブアドレス無し着信
- 呼出音を使い分ける
- 優先着信
- 通信機器を指定して着信させる
- 識別着信機能を使う
- フレックスホン、擬似コールウェイティング機能を使う
- 受話器の音量を調節する
- 操作に関するタイマの調節

RT80i のアナログ通信機能に関する設定を行なうには次の 3 通りの方法があります。

1. アナログポートに接続した PB 電話機のキー操作で設定する方法
2. WWW ブラウザを利用して設定する方法
3. コンソールからコマンドを入力する方法

1 番目の方法は、PB 電話機だけで行なう最もシンプルな方法です。LAN 間接続機能などの設定よりもとにかくアナログ通信機器が使用したい場合や、アナログの設定だけをちょっとだけ切替えたりする場合に便利です。ただし、この方法では現在の設定を PB 電話機から確認したりすることはできません。

この方法により設定するためには、**RT80i** 本体の TEL1 ポートか TEL2 ポートのいずれかに 1 台のアナログ PB 電話機を接続し、その電話機のキー操作により設定を行ないます。設定に使用できるアナログ電話機は PB トーンを出せるものに限ります。DP 方式のアナログ電話機を接続して通話することは可能ですが、設定は行なえません。

2 番目の方法は、最もわかりやすい方法です。ローカルネットワークに WWW ブラウザが使用可能なパーソナルコンピュータが接続されていればこの方法がよいでしょう。現在の設定も画面で確認することができます。

なお、リモートネットワークとの接続の設定が済めば、そのネットワーク上のコンピュータからも WWW ブラウザを使用して設定を行なうことができます。

3 番目の方法は、**RT80i** のコンソール操作に慣れた管理ユーザに最も適した方法です。あらゆる機能の設定や確認を素早く行なうことができます。この場合、**RT80i** の SERAIL ポートにシリアル端末を接続するか、TELNET でログインするか、リモートルータからログインします。管理ユーザはそこからコマンドを入力することになります。具体的なコマンドはコマンドリファレンスを参照します。

次の条件では、**RT80i** に対してアナログ通信機能の設定を行なうことはできません。

- 本体の電源が入っていない場合
- TEL1 ポートか TEL2 ポートのいずれかが通信中の場合、通信中のポートから設定すること

なお、回線が接続されていなくてもアナログ通信機能の設定を行なうことができます。

ルーティング機能とは独立して、アナログ通信機能だけを工場出荷設定にもどすこともできます。

これ以降の説明では、PB 電話機による設定手順を説明します。WWW ブラウザによる設定や確認操作については別冊の 『WWW 設定ガイド」を御覧ください。

7.2 PB 電話機からの設定

7.2.1 手順概要

PB 電話機から設定を行なう場合の手順の流れをあらかじめ説明します。

1. **RT80i** に PB 電話機が接続されていなければ接続します。
2. **RT80i** の電源は入っていますか? 入っていなければ AC コンセントへ接続します。
3. 受話器をあげます (オフフック)。

   受話器からダイヤルトーンが聞こえるのを確認します。ただし、回線に接続されていない場合にはビジートーンが聞こえます。

4. ＊キーを押し、その後＃キーを押します。＊キーを押した後は無音になり、＃キーを押した後に 「ツツー、ツツー」という音が受話器から聞こえます。

5. 設定したい機能の番号を別表 (50ページ) で確認し、その 2 桁の番号をキー入力します。

6. ポート番号を指定します。TEL1 ポートの設定を行なう場合には 1 キーを、TEL2 ポートの設定を行なう場合には 2 キーを押します。現在接続されているポートの設定を行なう場合には 1 キーまたは 2 キーの代わりに＊キーを押すこともできます。

   機能番号によっては、このポート番号の指定が不要の場合があるので注意してください。不要かどうかは別表 (50ページ) に示します。

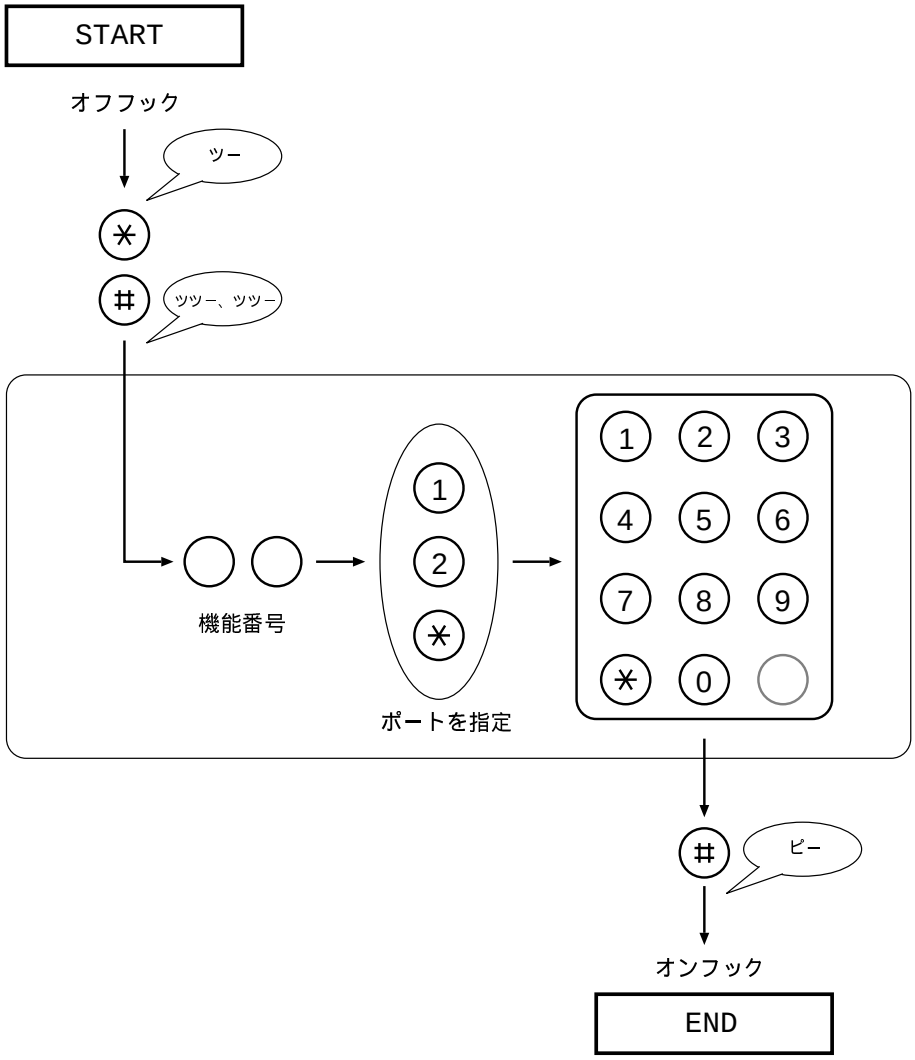
7. 設定する機能に応じて指定されたキー入力を行ないます。

8. ＃キーを押し、 「ピー」という音が受話器から聞こえれば正常に設定され、設定内容が不揮発性メモリに保存されます。 (ただし、LAN 側の IP アドレスとネットマスクの設定は除く)

   「ピー、ピー」という音が受話器から聞こえれば設定内容に誤りがあり、設定は変更されません。

9. 受話器を置きます (オンフック)。

設定操作をキャンセルする場合にはオンフックします。最後の＃キーを押す前であれば、設定開始から入力したキーは全て無効になり、設定を開始する前の設定内容は変更されません。



別表 :機能番号表

注意

- 機能番号の中で、番号の後ろのマイナス (–) はポート指定操作の不要を表します。
- 設定値の中で下線で示されたものがデフォルト値です。
- 設定値の欄に 「番号」とあるものは、契約者回線番号等の電話番号であることを意味します。
- 機能番号 42 のフッキング判別時間は設定値を 1/10 にしたものが実際の秒数になります。
- 機能番号 71 と 72 の設定は、PB 電話機からの操作だけでは不揮発性メモリに保存されません。
- 参照ページが未記入の機能の詳細については、コマンドリファレンスの該当部分を参照してください。

機能番号	機能内容	設定値	参照ページ
11	契約者回線番号またはダイヤルイン番号	番号 (番号なし)	14
12	サブアドレス	番号 (番号なし)	15
13	通信機器種別	0=指定無し 1=電話 2=FAX	15
21	発信者番号通知	0=通知しない 1=通知する	13
22	即時発信の使用	0=使用しない 1=使用する	13
31	グローバル着信	0=しない 1=する	14
32	識別着信リストに対する動作	0=何もしない 1=合致を着信 2=合致を拒否	16
33	識別着信リストの登録	番号 (番号なし)	16
34	サブアドレスなし着信	0=拒否 1=許可	15
35	通信機器種別を判別した着信	0=拒否 1=許可	15
36	話中着信を許可するか否か	0=拒否 1=許可	11
37–	優先着信ポートの設定	0=指定無し 1=TEL1 ポート 2=TEL2 ポート	15
38	着信ベルリストの登録 (リスト番号, 電話番号)	(1, 番号)(番号なし) (2, 番号)(番号なし)	15
41	ダイヤル桁間タイマ	1–59 秒 (4)	—
42	フッキング判別時間	5–20(10)	—
43	フッキング後に操作を受け入れる時間	1–9(4) 秒	—
44	フッキング及びオンフック検出を無効とする時間	0=検出しない 1–3 秒	—

機能番号	機能内容	設定値	参照ページ
51–	フレックスホン契約 (擬似 CW, CW, CT, AO, CD) CW=コールウェイティング CT=通信中転送 AO=三者通話 CD=着信転送	0=(× , × , × , × , ×) 1=(× , × , × , × , ○) 2=(× , × , × , ○ , ×) 3=(× , × , × , ○ , ○) 4=(× , × , ○ , × , ×) 5=(× , × , ○ , × , ○) 6=(× , × , ○ , ○ , ×) 7=(× , × , ○ , ○ , ○) 8=(× , ○ , × , × , ×) 9=(× , ○ , × , × , ○) 10=(× , ○ , × , ○ , ×) 11=(× , ○ , × , ○ , ○) 12=(× , ○ , ○ , × , ×) 13=(× , ○ , ○ , × , ○) 14=(× , ○ , ○ , ○ , ×) 15=(× , ○ , ○ , ○ , ○) 16=(○ , × , × , × , ×)	11
52–	コールウェイティング機能を使用するか否か	0=使用しない 1=使用する	11
53–	通信中転送機能を使用するか否か	0=使用しない 1=使用する	11
54–	三者通話機能を使用するか否か	0=使用しない 1=使用する	11
55	着信転送機能を使用するか否か	0=使用しない 1=使用する	11
56	着信転送先アドレスの設定	番号 (番号なし)	11
57	着信転送トーキの設定 (転送トーキ ・転送元トーキ)	0=(なし ・なし) 1=(あり ・なし) 2=(なし ・あり) 3=(あり ・あり)	11
58	着信転送起動タイミングの設定	0=着信直後に起動 1–10(回呼出後に起動)	11
59	網から着信転送が拒否された時の動作の設定	0=ビジートーンを返す 1=着信を受ける	11
61	送話 PAD の設定	0=PAD なし 1=−3dB 2=−6dB 3=+3dB	—
62	受話 PAD の設定	0=PAD なし 1=−3dB 2=−6dB 3=−9dB	—
71–	LAN 側の IP アドレスの設定	番号 (192.168.0.1)	—
72–	LAN 側ネットマスクの設定	番号 (255.255.255.0)	—

機能番号	機能内容	入力値
91	指定アナログポート設定内容の初期化 (機能番号 11,12,35,38,56 の設定を除く)	なし
92	識別着信リストの削除	番号
93	着信ベルリストの削除	番号
94	料金情報の初期化 (クリア)	なし
99	指定アナログポートの全設定内容の初期化	なし

7.2.2 設定例

PB 電話機からのアナログポート設定の操作例をいくつか説明します。手順はオフフックしてからのキー操作のみを示しています。最後の [#] キーの後は設定確認の音を確認後、オンフックしてください。

1. TEL1 ポートにダイヤルイン番号 「03–123–4567」を設定する。

   [*] [#] [1] [1] [1] [0] [3] [1] [2] [3] [4] [5] [6] [7] [#]

2. TEL2 ポートの通信機器種別を “FAX” に設定する。

   [*] [#] [1] [3] [2] [2] [#]

3. TEL1 ポートの識別着信リストに番号 「03–123–4567」を設定する。

   [*] [#] [3] [3] [1] [0] [3] [1] [2] [3] [4] [5] [6] [7] [#]

4. TEL2 ポートの着信ベルリスト 1 に番号 「03–123–4567」を設定する。

   [*] [#] [3] [8] [2] [1] [0] [3] [1] [2] [3] [4] [5] [6] [7] [#]

5. TEL1 ポートのフッキング判別時間を 1.3 秒に設定する。

   [*] [#] [4] [2] [1] [1] [3] [#]

6. フレックスホンの着信転送だけ契約を行ない、TEL1 ポートの転送先番号を 「03–123–4567」に設定、着信があれば実際に転送するように設定する。

   [*] [#] [5] [1] [1] [#]

   [*] [#] [5] [6] [1] [0] [3] [1] [2] [3] [4] [5] [6] [7] [#]

   [*] [#] [5] [5] [1] [1] [#]

7. LAN 側の IP アドレスを 192.168.12.3 、ネットマスクを 24 ビット (255.255.255.0) に設定する。

   [*] [#] [7] [1] [1] [9] [2] [*] [1] [6] [8] [*] [1] [2] [*] [3] [#]

   [*] [#] [7] [2] [2] [5] [5] [*] [2] [5] [5] [*] [2] [5] [5] [*] [0] [#]

8. TEL1 ポートに関する設定だけを初期化する。

   [*] [#] [9] [1] [1] [#]

9. TEL2 ポートの料金情報をクリア (0 円に) する。

   [*] [#] [9] [4] [2] [#]

7.3 操作手順

7.3.1 外線発着信

アナログポートから外線に発信する操作手順と、外線を受ける手順を説明します。

[外線発信]

1. 受話器をとってダイヤルトーンが鳴っていることを確認します。
2. 相手番号をダイヤルします。

   サブアドレスは、相手番号を入力した後に [*] キーを押してからダイヤルします。
3. 最後のダイヤルから数秒経過すると発信します。

   PB 電話機の場合は [#] キーを押すことですぐに発信します。
4. 相手の方が出たらお話してください。
5. お話がすんだら、受話器をおきます。

[外線着信]

1. 着信ベルが鳴ります。
2. 受話器をとって、相手の方とお話ください。
3. お話がすんだら、受話器をおきます。

7.3.2 内線発信

アナログポートから別のアナログポートへ発信する操作手順を説明します。

1. 受話器をとってダイヤルトーンが鳴っていることを確認します。
2. [*] キー、[1] キーを押します。
3. 相手の方が出たらお話してください。
4. お話がすんだら、受話器をおきます。

7.3.3 代理応答

一方のアナログポートで着信ベルが鳴っている時に、別のアナログポートがその着信に応答する操作手順を説明します。応答する方の電話機は通信していない状態である必要があります。

1. 他方のアナログポートに着信があります。
2. 受話器をとってダイヤルトーンが鳴っていることを確認します。
3. フッキングします。

   他方のアナログポートの着信ベルは停止し、発着信可能な状態になります。相手の方が出たらお話してください。
4. お話がすんだら、受話器をおきます。

7.3.4 内線転送

外線通話中に、外線の相手を別のアナログポートへ転送発信する操作手順を説明します。

1. 外線の相手に待って頂くように伝えて、フッキングします。
2. 受話器からセカンドダイヤルトーンが鳴っていることを確認します。
3. [*]キー、[1]キーを押します。
4. 相手の方が出たら、外線を転送することを伝えます。
5. 受話器をおきます。

7.3.5 親子電話

内線通話中に外線着信に応答する親子電話の操作手順を説明します。

1. 内線の相手に待って頂くように伝えて、フッキングします。
   内線の相手は保留状態になり、外線と継ります。
2. もう一度フッキングするとポーズトーンが聞こえます。
3. ここで、

   [*]キーを押すと　内線に切り替わります。
   フッキングすると　内線と外線の三者で通話できます。
   　　受話器をおくと内線と外線の両方が切断されます。受話器をおかずにフッキングすると、一方が保留中で他方が通話中の状態になります。
   オンフックすると　内線転送されます。

7.3.6 擬似コールウェイティング

擬似コールウェイティングの操作手順を説明します。

1. 外線通話中に着信があったことを知らせる話中着信音が聞こえます。
2. フッキングします。
   通話中の相手が保留され、着信した相手と話すことができます。
3. 保留された相手と話すためには、再びフッキングします。
4. 受話器をおくまでは、同様にしてフッキング操作により相手を自由に切替えることができます。
5. お話がすんだら、受話器をおきます。

7.3.7　フレックスホン

フレックスホンの操作手順を説明します。

[コールウェイティング]

1. 外線通話中に着信があったことを知らせる話中着信音が聞こえます。
2. フッキングします。

   通話中の相手が保留され、着信した相手と話すことができます。保留された相手には保留音が聞こえます。
3. 保留された相手と話すためには、再びフッキングします。

   保留された相手には保留音が聞こえます。
4. 受話器をおくまでは、同様にしてフッキング操作により相手を自由に切替えることができます。
5. お話がすんだら、受話器をおきます。

[通信中転送]

MEMO	外線着信した相手に対してだけ通信中転送を行なうことができます。

1. かかってきた外線の相手に待って頂くように伝え、フッキングします。
2. 受話器からセカンドダイヤルトーンが鳴っていることを確認します。
3. 転送相手の電話番号をダイヤルします。

   保留された相手には保留音が聞こえます。
4. 相手のかたが出たら、外線を転送することを伝えてフッキングします。
5. ポーズトーンが受話器から聞こえている間に受話器をおきます。

   受話器をおいた後に転送先と保留した外線が継ります。

MEMO	手順 3 の後の呼出中に受話器をおいて、相手が出る前に保留中の外線を転送してしまうことも可能です。

[三者通話]

1. 外線の相手に待って頂くように伝え、フッキングします。
2. 受話器からセカンドダイヤルトーンが鳴っていることを確認します。
3. 三者通話したい相手の電話番号をダイヤルします。

   保留された相手には保留音が聞こえます。

4. 相手のかたが出たらお話しください。

5. フッキングします。

   受話器からはポーズトーンが聞こえます。

6. 更にフッキングします。

7. 通話中の相手と、保留中の相手の三者で話すことができます。 (ミキシング状態)

8. ミキシング状態になる前の相手と話したい場合にはフッキングします。

   もう一方の相手には保留音が聞こえます。

9. お話がすんだら、受話器をおきます。

   ミキシング状態であれば、両方の外線が同時に切断されます。ミキシング状態でなく、保留中の相手があれば、着信ベルが鳴りますので、受話器をとることでその相手と話すことができます。

[着信転送]

1. 着信転送起動タイミングが 『着信直後に起動」 (デフォルト) の場合、着信があるとすぐに相手に転送されます。

   指定した 『回数呼出後に起動」になっていると、その回数だけ着信ベルが鳴ります。着信ベルが鳴っている間に受話器をとると、通話することができます。

2. 転送が完了すると発着信することが可能な状態になります。

第 8 章　システムの管理と診断

ここでは、LAN 間接続機能について、日常の管理作業の内容と具体的な設定や診断方法を解説します。システムの管理と診断では以下の項目を説明します。

- ♣ システムの管理作業内容
- ♣ 設定の確認
- ♣ TFTP による設定と確認
- ♣ プログラムのリビジョンアップ
- ♣ システムのセキュリティの設定
- ♣ 接続性の確認
- ♣ システムの診断
- ♣ 覚えておきたい操作手順

8.1　システムの管理作業内容

管理者は、次のような状況では適切な作業を行ないます。

- ISDN 番号またはサブアドレスが変更された
- 新規相手先情報の追加
- 不要な相手先情報の削除
- 相手先情報に変更があった
- LAN 側のネットワークの構成変更
- システム及びネットワークのセキュリティ管理
- ソフトウェアのリビジョンアップ対応
- 故障や問題の発生

RT80i に関して定期的に管理することが望ましい項目を以下に列挙します。

- ログインパスワードの変更
- 管理パスワードの変更
- PAP のパスワードの変更
- 通信ログのチェックとクリア
- アカウントのチェックとクリア

8.2 設定の確認

管理ユーザが設定した内容を確認する方法には大きく 2 つに分けられます。一つは、設定をすべて順番に参照する方法であり、この場合は **show config** コマンドを使用します。このコマンドは一般ユーザも使用することができます。

```
> show config
sysname RT80i
administrator password *
console character ascii
...
```

8.3 TFTP による設定と確認

RT80i に設定した項目は、TFTP により LAN 上のホストから設定ファイルとして読み出すことができます。またホスト上の設定ファイルを **RT80i** に読み込ませて設定を行なうこともできます。

この場合には、まず **tftp host** コマンドを使用し、**RT80i** にアクセスできるホストを設定します。デフォルトではどのホストからもアクセスできない設定になっていることに注意してください。

```
> administrator
Password:
# tftp host 192.168.0.25
# show tftp
アクセス許可:  192.168.0.25
# save
```

次に、LAN 上のホストから TFTP コマンドを実行します。使用するコマンドの形式は、そのホストの OS に依存します。次の点に注意して実行してください。

- **RT80i** の IP アドレス
- 転送モードは “アスキー” または “文字” にします。
- **RT80i** に管理パスワードが設定されている場合には、ファイル名称の後ろに管理パスワードを指定する必要があります。
- 読み出したり書き込んだりする設定ファイル名は “config” という名称に固定されています。

次に、SUN OS のワークステーション上から設定ファイルを読み出した場合の例を示します。**RT80i** のコンソール操作でないことに注意してください。**RT80i** の管理パスワードは “adM123”、ワークステーションに新しくできるファイルの名称を “OLDconfig” とします。

```
% tftp
tftp> connect 192.168.0.1
tftp> mode ascii
tftp> get config/adM123 OLDconfig
Received 768 bytes in 0.1 seconds
tftp> quit
%
```

同様に設定ファイルを書き込む場合の例を示します。**RT80i** の管理パスワードは “adM123”、書き込むべきワークステーション上のファイルの名称を “NEWconfig” とします。

```
% tftp
tftp> connect 192.168.0.1
tftp> mode ascii
tftp> put NEWconfig config/adM123
Sent 799 bytes in 0.1 seconds
tftp> quit
%
```

cold start コマンドの直後に **TFTP** により設定ファイルを読み込む場合において回線種別の変更を伴う場合は、設定の最後に **restart** コマンドが必要なことに注意してください。

8.4 プログラムのリビジョンアップ

Anonymous FTP サーバ ftp.rtpro.yamaha.co.jp から入手した RT80i.bin ファイルを、ワークステーションやパーソナルコンピュータから **RT80i** へ転送する時の概要と手順を説明します。

8.4.1 手順の概要

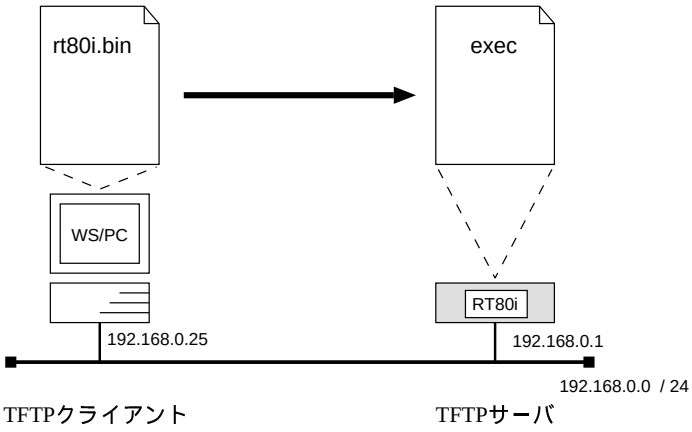
RT80i のリビジョンアップは TFTP を用いて行ないます。**RT80i** のリビジョンアップファイルは、ワークステーションやパーソナルコンピュータ上の TFTP コマンドを用いて **RT80i** に転送します。 この時、**RT80i** は TFTP サーバとして動作し、ワークステーションやパーソナルコンピュータは TFTP クライアントとして動作します。

リビジョンアップが終了して、**RT80i** が再起動するまでの間は、絶対に **RT80i** の電源を切らないでください。不揮発性メモリへの書き込み中に電源を切ると、**RT80i** を再度起動することができない状態になります。

万一電源を入れ直しても再起動できなくなった場合にはサービス窓口までご連絡ください。

TFTP の実行形式はそれぞれの OS に依存します。 次のポイントに注意して実行してください。

- 転送モードはバイナリにします。(binary や bin と表現される)
- 送信元のファイル名は RT80i.bin、**RT80i** 側のファイル名は exec です。特に後者は固定されています。



M E M O

プログラムをリビジョンアップしてもユーザの設定内容は保存されます。

8.4.2 手順の説明

まず **RT80i** 側の設定を行ない、次に LAN 上の SUN OS のワークステーションからプログラムを転送する場合を説明します。

実際にプログラムを転送する前に、予め **RT80i** 側で TFTP によりプログラムを転送することのできるホストの IP アドレスを設定します。また、プログラムの変更中の不安定な状態を避けるために、PP 側の通信を中止します。次の例ではホストの IP アドレスを 192.168.0.25 としています。

```
> administrator
Password:
# save
セーブ中．　．　．
セーブ終了
# tftp host 192.168.0.25
# pp disable all
#
```

⚠注意

この手順では最後に **save** していないので、リスタート後は必ずしも **pp disable all** の状態でないことに注意してください。

次に、LAN 上の SUN OS のワークステーションから TFTP によりプログラムを転送する場合の例を示します。それ以外の場合はこの手順を参考に行なってください。192.168.0.1 は **RT80i** の IP アドレスです。プログラムの転送には 30 秒程かかります。**RT80i** のコンソールではないことに注意してください。

1. まず、取り寄せたプログラムのあるディレクトリに移動します。
2. プログラムのファイルサイズを md5sum ユーティリティを用いて確認します。このユーティリティは ftp.rtpro.yamaha.co.jp/pub/util/md5sum/ にあり、rt80i.bin プログラムと同じディレクトリにある rt80i.md5 ファイルを用いることで行ないます。“OK” が表示されない場合はファイルが壊れている可能性がありますから、もう一度転送モードに注意して rt80i.bin ファイルを取り寄せなおしてください。
3. ワークステーション上の TFTP コマンドによりプログラムを **RT80i** へ転送します。

```
% md5sum -v -c rt80i.md5
rt80i.bin.02.00.00 OK
% tftp
tftp> connect 192.168.0.1
tftp> mode binary
tftp> put rt80i.bin exec
( OS のメッセージ表示 )
( 30 秒程経過 )
tftp> quit
%
```

この後、**RT80i** は自動的に再起動します。
約 10 秒から 20 秒後に通信可能な状態になります。その後、**show environment** コマンドでリビジョンを確認してください。

```
> show environment
RT80i Rev.2.02...(略)
...
>
```

通信中でもリビジョンアップをすることができますが、タイミングによっては、その直後動作が不安定になることがあります。そのような場合は電源を入れ直すことで正常に復帰します。

8.5 システムのセキュリティの設定

システムに対するセキュリティとしては、ログインタイマの設定とセキュリティクラスの設定の 2 つがあります。

8.5.1 ログインタイマの設定

コンソールにキー入力が一定時間無い時には、自動的にログアウトするように設定することができます。この場合には **login timer** コマンドを使用し、ログアウトの時間を 30 以上の秒単位で設定します。デフォルトは 300 秒です。

次に、このタイマを 120 秒に設定する時の例を示します。

```
> administrator
Password:
# login timer 120
# show environment
...
ログインタイマ:  120 秒
...
# save
```

パラメータを *clear* に設定すると、自動ログアウトが無効になり **quit** コマンドを実行するまでログインした状態のままになります。

注意

TELNET でログインしている場合には、セキュリティの観点からパラメータが **clear** である場合でもログインタイマが **300** 秒として扱われます。

8.5.2 セキュリティクラスの設定

セキュリティクラスでは、アクセスとパスワードに対する制限を設定します。アクセスに対しては 3 段階のレベルがあり、パスワードに関しては 2 段階のタイプがあります。また、TELNET クライアントとして利用できるかどうかの制限も設定できます。

デフォルトはレベルが 1 で、タイプが on、TELNET クライアント機能使用は off です。

次に、アクセスに対する 3 つのレベルの違いを一覧表にまとめます。例えば、デフォルトのレベル 1 から 2 に変更すると、遠隔地のルータからのログインだけを拒否することができます。

レベル	**SERIAL** ポートからの操作	**TELNET** によるログイン	**WWW** によるアクセス	遠隔地のルータからのログイン
1	許可	許可	許可	許可
2	許可	許可	許可	拒否
3	許可	拒否	拒否	拒否

次に、パスワードに対する 2 つのタイプの違いを一覧表にまとめます。

タイプ	パスワードを忘れた場合のログイン
on	可能
off	不可能

次に、TELNET クライアント機能に対する制限を一覧表にまとめます。

パラメータ	**TELNET** クライアント機能の使用
on	許可
off	拒否

MEMO

この表にあげた項目以外では、**SERIAL** ポートの端末操作、**LAN** 上のホストからの **TELNET** によるログイン、遠隔地のルータからのログインの **3** つのアクセス手段における操作上の違いはありません。

セキュリティクラスを設定する場合には、**security class** コマンドを使用します。

次にセキュリティクラスのレベルを 2、タイプを on、TELNET クライアント使用許可とする場合の例を示します。

```
> administrator
Password:
# security class 2 on on
# show environment
...
セキュリティクラス レベル:  2, タイプ:  ON, TELNET: ON
...
# save
```

8.6 接続性の確認

通信相手との接続を確認するコマンドとして、**ping** コマンドと **traceroute** コマンドの 2 つがあります。

確認内容	コマンド名称	説明
通信相手の状態	ping	テスト用のパケットを送出して結果を表示します。
通信経路の表示	traceroute	指定した IP アドレスのホストまでの経路を調べて表示します。

それぞれのコマンドの実行の様子を以下に示します。

```
> administrator
Password:
# ping 192.168.112.215
192.168.112.215 は動作しています
# traceroute 192.168.112.215
 1 192.168.112.2 10 ms 10 ms 10 ms
 2 ...
 3 ...
#
```

8.7 システムの診断

管理ユーザは、診断用として用意されたコマンドを実行することによって、**RT80i** のシステム状態を診断することができます。次に、診断に関するコマンドを一覧表にします。

診断項目	コマンド名称	説明
ARP テーブルの表示	show arp	**RT80i** の保持する ARP テーブルを表示します。
通信ログの表示	show log	通信に関するログを表示します。
IP 経路情報テーブル	show ip route	IP 経路情報テーブルを表示します。
回線状態の表示	show status bri	現在接続している相手先の情報を表示します。
LAN 側状態の表示	show status lan	LAN 側の MAC アドレス、MTU、通信の統計情報を表示します。
各相手先の状態表示	show status pp	指定した相手に対して、接続中、または最後の接続時の状態を表示します。

8.8 覚えておきたい操作

RT80i を管理する際に覚えておくと操作を簡単にしたり、対応に困った時に便利な操作をあげておきます。

8.8.1 相手先情報を変更せずに通信を中断したい

RT80i は相手先情報により回線の自動接続と自動切断を行ないますが、メンテナンスの必要から回線を外したい場合には、設定内容を変更することなくその相手先だけの接続を中断することができます。この方法には 2 つあります。

第 1 の方法は、**pp disable** コマンドを使用するものです。このコマンドは、指定した相手先への発信も着信もできないようにします。

次に相手先情報番号の 2 番に対して、発信と着信の両方を拒否する場合の例を示します。

```
> administrator
Password:
# pp disable 2
```

第 2 の方法は、その相手先からの着信のみを拒否する **isdn arrive permit** コマンドと、その相手先への発信を拒否する **isdn call permit** コマンドを使用するものです。両方を使用すると **pp disable** コマンドを使用した場合と同等になります。

次に相手先情報番号の 2 番に対して、発信を拒否する場合の例を示します。設定の確認は以下のように “有効なスイッチ” の欄から削除されているかどうかで行ないます。

```
> administrator
Password:
# pp select 2
pp2# show isdn remote
...
有効なスイッチ:
 auto connect, arrive permit, call permit
...
pp2# isdn call permit off
pp2# show isdn remote
...
有効なスイッチ:
 auto connect, arrive permit
...
pp2# save
```

8.8.2 回線の接続と切断に関するタイマの設定

回線の接続と切断に関して、それぞれの相手先情報に対する各種タイマの設定を行なうことができます。タイマには 6 つの種類があり、次の表のような違いがあります。

タイマ種別	設定コマンド名称	説明
再発信禁止タイマ	isdn call prohibit time	発信に失敗した後に同じ相手に再発信するまで禁止される時間。デフォルトは 60 秒。
コールバック待機タイマ	isdn callback wait time	コールバック要求に対する着信を許可する時間。デフォルトは 60 秒。
切断タイマ	isdn disconnect time	PP 側からデータ送受信が無い時、このタイマの時間を経過すると回線を切断します。デフォルトは 60 秒。
入力切断タイマ	isdn disconnect input time	PP 側からデータ受信が無い時、このタイマの時間を経過すると回線を切断します。デフォルトは 120 秒。
出力切断タイマ	isdn disconnect output time	PP 側へのデータ送信が無い時、このタイマの時間を経過すると回線を切断します。デフォルトは 120 秒。
ファスト切断タイマ	isdn fast disconnect time	回線接続中、別宛先へ接続したい時に、このタイマの時間を経過すると接続中の回線を切断し、別宛先へ発信します。デフォルトは 20 秒。
強制切断タイマ	isdn forced disconnect time	相手に接続する最大時間を制限します。このタイマの時間を経過すると、通信状態にかかわらず接続中の回線を強制的に切断します。デフォルトは強制切断しない。

8.8.3 パスワードを忘れた場合

一旦ログアウトした後にパスワードを忘れた場合に再度ログインするための唯一の方法は、コマンドリファレンスの **security class** コマンドの説明にあるパスワードを使用することです。ただし、これが可能なのはセキュリティクラスのパラメータで “on” が指定されている場合だけです。

8.8.4 発信者番号通知サービスの利用

RT80i に接続する回線が INS ネット 64 の場合には、発信者番号通知サービスを利用して、網から通知された ISDN 番号とサブアドレスに基づいて着信を拒否するか許可するか決定することができます。この場合、回線を接続する前に判断できるので通信料金の課金がありません。

また、サブアドレス を利用することで、他の ISDN 通信機器とバス配線された **RT80i** を特定して着信させることができます。

発信者の番号通知が無い場合の着信は、すべて相手先が **anonymous** として扱われます。

この発信者番号通知のサービスは **NTT** との契約によります。

次に、相手先情報番号 30 からの着信を拒否する場合の設定例を示します。設定の確認は以下のように “有効なスイッチ” の欄から削除されているかどうかで行ないます。

```
> administrator
Password:
# pp select 30
pp30# show isdn remote
...
有効なスイッチ:
 auto connect, arrive permit, call permit
...
pp30 # isdn arrive permit off
pp30# show isdn remote
...
有効なスイッチ:
 auto connect, call permit
...
pp30 # save
```

次に、相手先情報番号 30 のサブアドレスを “Tokyo” とする場合の設定例を示します。大文字と小文字が区別して扱われることに注意します。回線番号は 03-123-4567 としています。

```
> administrator
Password:
# pp select 30
pp30 # isdn remote address call 03-123-4567/Tokyo
pp30 # show remote list
PP30:  031234567/Tokyo
pp30 # save
```

8.8.5 通信費用の監視

show account コマンドを使用します。一定期間の通信費用を監視したい場合には開始時点で **clear account** コマンドを使用して、累計額をクリアしておきます。

```
> administrator
Password:
# show account
```

8.8.6 設定内容をすべて消去したい

RT80i を全く別のネットワークで使用するために移動させて使う場合や、問題の設定箇所が特定出来ないためにすべての設定をやり直したい場合には、**RT80i** の設定内容をすべて消去する方が時間の短縮になるケースがあります。

このような場合には、次の 2 つの方法があります。

1. SERIAL ポートに端末を接続して、そこから **cold start** コマンドを使用する。
2. INIT ボタンを押しながら、電源を入れ直すか RESET ボタンを押す。

TELNET でログインしたり、遠隔地のルータからログインしている場合には通信のための IP アドレス等を消去するので、その通信が切断される事に注意してください。

上記を実行すると、管理ユーザが選択した設定項目は、すべてデフォルト設定に変更され、登録のために入力した設定やフィルタの定義等は一切消去されます。

TELNET により管理ユーザとなっている時に **cold start** コマンドを実行すると **IP** アドレスも消去しますので、その後通信できない状態になります。

```
> administrator
Password:
# cold start
Password:
```

cold start コマンドと **restart** コマンドの違いは、前者は不揮発性メモリの内容を工場出荷直後の設定に書き換えてから再起動するのに対し、後者は現在の不揮発性メモリの内容に従って再起動する点です。

8.8.7 遠隔地のルータの設定

こちら側の **RT80i** の SERIAL ポートに接続したコンソールの操作で遠隔地の **RT80i** の設定をする事ができます。この場合には、**remote setup** コマンドを使用します。

回線接続後、相手側の **RT80i** へのログイン時には相手側のログインパスワードを問い合わせられますので事前に知っておく必要があります。

次に、ISDN 番号とサブアドレスが 03-123-4567/Tokyo の **RT80i** を設定するためにログインしてから終了するまでの例を示します。

```
> administrator
Password:
# remote setup 03-123-4567/Tokyo

Password:

RT80i Rev.2.02...  (略)
00:a0:de:01:23:45
Memory 4Mbytes, 1BRI
>
(必要な設定を行ないます)
> quit
#
```

回線種別が専用線の場合にも、接続相手の **RT80i** の設定を行なうことができます。

```
pp1> administrator
Password:
pp1# remote setup

Password:

RT80i Rev.2.02...  (略)
00:a0:de:01:23:45
Memory 4Mbytes, 1BRI
>
(必要な設定を行ないます)
> quit
pp1#
```

また、遠隔地側からの設定を一切行なえないように制限をかける場合には、**remote setup accept** コマンドを使用します。デフォルトではすべての相手先からの設定が可能です。

次に、ISDN 番号とサブアドレスが **03-123-4567/Tokyo** の **RT80i** からの設定だけを許可する場合の例を示します。この時の ISDN 番号の市外局番は省略しないでください。

```
> administrator
Password:
# remote setup accept 03-123-4567/Tokyo
```

8.8.8 回線状況の確認方法

手動発信や手動切断を行なう前には、必ず回線側の接続状況を確認してください。
回線の接続状況の確認には、**show status pp** コマンドを使用します。

```
# pp select 1
pp1# show status pp
```

8.8.9 手動発信

RT80i は LAN 側からパケットを受信した場合に経路情報と接続のための登録内容、フィルタ条件によって回線に発信を開始しますが、これを手動で行なうことができます。
手動発信は相手先情報番号を指定して発信します。相手先情報番号の 12 番に手動発信をする場合には、以下のように **connect** コマンドを使用します。

```
# connect 12
```

手動発信した場合には、相手先情報の設定に関わらずファスト切断タイマによる切断は行なわれません。

RT80i の発信を自動で行なわずに常に手動で行なう場合には、**isdn auto connect** コマンドを使って以下のように設定します。

```
# isdn auto connect off
# save
```

8.8.10 手動切断

RT80i は相手先情報に設定されているタイマ条件によって ISDN 回線を切断しますが、これを手動で行なうことができます。
切断は相手先情報番号を指定するか、2 チャネルすべてを切断することができます。手動切断する場合には **disconnect** コマンドを使用します。相手先情報番号を指定して手動切断する場合には、パラメータに相手先情報番号を指定し、接続している相手先に関わらず回線を切断したい場合には、パラメータに “all” を指定します。

次に、相手先情報番号が 12 番の相手との回線を手動切断する場合の例を示します。

```
# disconnect 12
```

第 9 章　参考資料

この取扱説明書を読む上で参考になる補足事項を説明します。参考資料では以下の項目を説明します。

- ハードウェア仕様
- 通信機能
- IP アドレスについて
- IP アドレスの取得と **RT80i** への設定
- INS ネット 64 申込上の注意点

9.1　ハードウェア仕様

RT80i のハードウェア仕様を以下の表に示します。

項目	仕様及び特性
寸法, 重量	297 x 213 x 36 (mm), 1.1kg
電源電圧, 周波数	AC100V, 50/60 Hz
消費電力	30W
メモリ	Flash ROM 1 Mbytes, DRAM 4 Mbytes
LAN インタフェース	イーサネット 10BASE–T (RJ–45)
アナログインタフェース	2 線式 (RJ–11) x 2
WAN インタフェース	ISDN または ディジタル専用線 (RJ–11, DSU 機能内蔵)
S/T インタフェース	入出力切替可能 (RJ–45)
シリアルインタフェース	非同期シリアル (RS-232C,D-sub9 ピン)
シリアルデータ伝送速度	9600 bit/s
表示機能	LEDx6(L1,B1,B2,LINK,DATA,POWER)
動作環境条件	周囲温度 –10 ~ 40 ℃, 周囲湿度 35 ~ 85% (結露しないこと)
保管環境条件	周囲温度 –20 ~ 50 ℃, 周囲湿度 30 ~ 90% (結露しないこと)

9.2　通信機能

RT80i がサポートする通信機能を以下の表に示します。

インタフェース	機能
回線側	ISDN 回線交換 (2B+D)、またはディジタル専用線 (I インタフェース、64kbit/s または 128kbit/s) 同時に最大 2 ヶ所と接続 自動接続及び自動切断可 (回線交換時) 手動発信及び手動切断可 (回線交換時) 網から通知された ISDN 番号による識別着信 (回線交換時)
LAN 側	イーサネット (10BASE–T) 反転スイッチにより 10BASE–T の送信と受信信号の交差が可能

9.3 IP アドレスについて

TCP/IP により通信を行なう場合、ホストには IP アドレスが必要です。次に、IP アドレスのアドレス長、アドレスクラス、サブネットマスク、ブロードキャストアドレスについて説明します。

取扱説明書の中では、設定の例を示すために具体的な **IP** アドレスを使用しています。これらはあくまでも例ですから、そのアドレスがどこかを確認せずに実際に使用しないでください。

9.3.1 アドレス長

TCP/IP における IP データグラムには、発信元、送信先のアドレス情報があります。これらはそれぞれ、始点 IP アドレス、終点 IP アドレスとよびます。

IP アドレスは 32 ビットのデータと規定されています。**RT80i** への設定や、取扱説明書での説明では 8 ビット毎の 10 進数 4 つを、ピリオドで区切って表現します。

表現	例
ビット列による表現	11000000 10101000 01110000 11010111
取扱説明書中の表現	192.168.112.215
十六進数による表現	C0A870D7

9.3.2 アドレスクラス

IP アドレスは、論理的なネットワークグループの大きさによってネットワーク部とホスト部に分けて管理されます。ネットワーク部の長さとホスト部の長さの組合せによって、クラス A、クラス B、クラス C の 3 つに分類されます。次に、各クラスの一覧表を示します。

クラス	先頭ビット	ネットワーク部	ホスト部
A	0	8 ビット	24 ビット
B	10	16 ビット	16 ビット
C	110	24 ビット	8 ビット

9.3.3 ネットマスク

RT80i では、**ip lan address** や、**ip pp local address**、**ip pp remote address** コマンドのパラメータにてネットマスクをビット単位で設定できます。

参考として、以下の表に 8 ビットの 2 進数とその 10 進数の対応の一部を示します。

2 進数表記	10 進数表記
11111111	255
11111110	254
11111100	252
11111000	248
11110000	240
11100000	224
11000000	192
10000000	128

2 進数表記	10 進数表記
00000000	0
00000001	1
00000011	3
00000111	7
00001111	15
00011111	31
00111111	63
01111111	127

例えばある **RT80i** が、

```
# ip lan address 192.168.112.215/28
```

のように設定されている場合のネットワークとホストの IP アドレスの関係は、215 のビット表現が 11010111 であり、ネットマスクパラメータ 28 の下 8 桁のビット表現が 11110000 ですから、下から 4 ビットをマスクする (0 にする) と 11010000 (10 進数で 208) になります。以上をまとめると以下の表のようになります。

IP アドレス	割り当て
192.168.112.208	LAN 側のネットワーク
192.168.112.209 : 192.168.112.214	ホスト (6 台分)
192.168.112.215	ルータの LAN インタフェース
192.168.112.216 : 192.168.112.222	ホスト (7 台分)
192.168.112.223	LAN のブロードキャスト

9.3.4 ブロードキャストアドレス

ブロードキャストとは、一つのセグメントに接続しているホストへパケットを一斉に送信することです。このための特別な IP アドレスがブロードキャストアドレスです。

ブロードキャストアドレスのタイプには次の 4 種類があります (RFC1122)。ここで "-1" はすべてのビットが "1" を表します。

タイプ	アドレスの形
Limited Broadcast	$\{-1, -1\}$
Directed Broadcast	$\{\langle Network - number\rangle, -1\}$
Subnet Directed Broadcast	$\{\langle Network - number\rangle, \langle Subnet - number\rangle, -1\}$
All-Subnets Directed Broadcast	$\{\langle Network - number\rangle, -1, -1\}$

このうち、ブロードキャストアドレスとしてはホスト部のビットをオール 1 にした Limited Broadcast を用いるべきである (SHOULD; RFC1122) と書かれています。その理由としては、 サブネットを解釈しないホストやサブネットの設定が間違っているホストがあった場合に Subnet Directed Broadcast は予期しない動作を引き起こす可能性があるためです。

RT80i はすべてのタイプを受けることができます。また、出す方は **ip lan broadcast** コマンドにより上記の表のうちから一つのタイプを選択することができます。

ブロードキャストアドレスは、それぞれの運用ネットワークによって異なりますので、既にネットワークが運用されている場合にはそちらに従ってください。

9.4 IP アドレスの取得と RT80i への設定

IP アドレスには、グローバルアドレスとプライベートアドレスがあります。

インターネットと接続して TCP/IP 通信を行なう場合、ネットワーク上のノードには重複しない IP アドレス、すなわちグローバルアドレスを割り当てる必要があります。

グローバルアドレスの具体的な割り当てはNIC(Network Information Center)が行なっています。日本でのアドレス取得についてはJPNICが、それぞれのネットワークアドレス配下のホストアドレスは、通常そのネットワークの管理者が行ないます。

アドレスの部分	決定方法
IP アドレスのネットワーク番号	JPNIC から入手
IP アドレスのサブネット番号	管理者が設定
IP アドレスのホストアドレス	管理者が設定

インターネットと接続せずに、会社等の組織で孤立してTCP/IP 通信を行なう場合には、グローバルアドレスを取得せずにプライベートアドレスを 使用することが可能です。
プライベートアドレスとしては、以下の範囲が割り当てられています。

- 10.0.0.0 から 10.255.255.255
- 172.16.0.0 から 172.31.255.255
- 192.168.0.0 から 192.168.255.255

MEMO

インターネットと接続する可能性が少しでもある場合には、
グローバルアドレスを使用するようにしてください。

9.5 INS ネット 64 申込上の注意点

INS ネット 64 を新規に申し込む場合には、**RT80i** の機能を十分発揮させるために 『INS ネット 64 お申込票 (1/2)」について以下の点に注意します。

■ 太線内の記入について

⑧ 『接続する通信機器」の欄の記述は以下のようにします。

記入欄	記入内容
通信機器の名称	RT80i
メーカ	ヤマハ株式会社
認定番号	T97–5129–0, U97–0060–0, N97–0050–0
数量	1

■ コンサルティング項目について

申込票下部にある NTT 記入欄の 『コンサルティング項目」の必須項目に対しては、次の点に注意します。

インタフェース形態及びレイヤ 1 起動種別

『P– MP 呼毎」を選択してください。ただし、**RT80i** は 『呼毎起動」 『常時起動」のいずれでも動作できますので、同じ回線にバス接続する別の ISDN 端末によっては 『常時起動」を選択することもできます。

発信者番号通知サービス

『呼毎通知許可」を選択してください。他の項目を選択すると、相手 ISDN 番号による識別などの機能が働きません。

ユーザ間情報通知サービス

「着信許可」を選択してください。**RT80i** はこのサービスを利用しませんが、他社製品でこのサービスを利用するものと接続する時に、「着信拒否」を選択していると接続できない可能性があります。

また、NTT 記入欄の「コンサルティング項目」の付加機能等項目に関する注意事項を以下に示します。

ダイヤルインサービス

自己 ISDN 番号 (**bri local address** コマンドによる設定) として、このサービスにより追加された ISDN 番号を設定できます。ただし、サービス申込時にこのサービスのオプションである「グローバル着信利用」を選択すると、グローバル番号へ着信した時には自己 ISDN 番号による識別は働きません。

グループセキュリティサービス

一つのグループのみ利用できます。

索引

? キー, 33
10BASE–T, 23, 24

administrator, 41
administrator password, 38
anonymous, 66
ARP, 64

bri local address, 75

clear account, 67
cold start, 45, 59, 67
connect, 69
console character, 28
console lines, 30

disconnect, 39, 42, 69
DP, 11
DSU, 7, 17, 21, 24

help, 32
HUB, 23

ICMP, 9
ip lan address, 72
ip lan broadcast, 73
ip pp local address, 72
ip pp remote address, 72
ip pp route add, 45
IP アドレス, 28, 45, 67, 72, 73
IP パケット, 8
IP 経路情報テーブル, 64
isdn arrive permit, 64
isdn auto connect, 69
isdn call permit, 64
isdn disconnect policy, 9

JPNIC, 74

login password, 38
login timer, 29, 62

MAC アドレス, 64
md5sum ユーティリティ, 61
MP, 17
MTU, 64

NIC, 74
NOR, 23
NTT, 18

PAP, 57
PB 電話機, 48
ping, 63
pp account threshold, 9
pp default, 45
pp disable, 42, 43, 64
pp enable, 42, 43
PPP, 32

quit, 42, 62

remote setup, 68
remote setup accept, 68
restart, 59, 67
RIP, 10
RIP2, 10
RVS, 23

save, 42, 43, 45
security class, 63, 66
show account, 67
show command, 32
show config, 42, 58
show status bri, 39
show status pp, 69
SJIS, 29

TCP, 9
TCP/IP, 32, 73
TELNET, 27, 63, 67
TFTP, 58
tftp host, 58
traceroute, 63

UDP, 9

WWW 設定ガイド, 4

１８４, 13

アカウント, 57
アクセスレベル, 27, 29, 34, 35
アスキー, 58
アナログ通信機能, 10

インターネット, 73, 74

エラーメッセージ, 29, 31

キーワード, 31, 33

クイックスタートガイド, 4

グローバルアドレス, 73
グローバル着信, 14

コマンドヒストリ機能, 33
コマンドリファレンス, 4, 37, 45, 66
コマンド名称補完機能, 33
コンソール, 27, 28, 31, 32, 34, 38, 62, 68

サブアドレス, 66
サブアドレス無し着信, 15

シリアル端末, 4, 28
シンタックス, 31

スタティックルーティング, 10

セカンドダイヤルトーン, 12
セキュリティ, 9, 29, 38, 39, 57
セキュリティクラス, 62, 63

タイマ, 62, 65, 69

ダイナミックルーティング, 10
ダイヤルイン, 14, 18
ダイヤルトーン, 12

ディジタル専用線, 8
デフォルト, 37, 45, 62, 67
デフォルト値, 28, 45

ハウラー, 12

バス配線, 66

パケット, 8, 9

ビジートーン, 12

フィルタ, 45, 67, 69
フィルタリング, 9, 43
フレックスホン, 11

ブロードキャスト, 73

プライベートアドレス, 73, 74

ヘルプ, 27, 32
ヘルプメッセージ, 29

ポーズトーン, 12

ルーティング, 43

ログイン, 62
ログインタイマ, 62
ログインパスワード, 35, 38, 57, 68

一般ユーザ, 29, 34, 41, 43

遠隔地のルータ, 62, 63

管理パスワード, 35, 38, 41, 57, 58
管理ユーザ, 29, 34, 38, 41, 43, 58, 64, 67

擬似コールウェイティング, 11

経路情報テーブル, 10

呼出音, 12
再起動, 42, 45, 67

識別着信リスト, 16

終端抵抗, 21

初期設定, 37, 38

即時発信機能, 13

代理応答, 14

着信ベル, 12, 15
着信ベルリスト, 15

通信ログ, 18, 31, 32, 57, 64
通信機器種別, 16
通信料金情報, 16

適合認定品, 11

発信者番号通知, 18

不揮発性メモリ, 17, 43, 45, 49, 67

優先着信, 15

料金情報, 18

話中着信音, 12